

令和 6 (2024) 年度

**経済・経営学演習
経済工学演習**

募 集 要 項

九州大学経済学部

< 目 次 >

| | |
|--|----|
| 1. はじめに | 1 |
| 2. ゼミ応募の際の注意 | 2 |
| (1) 両学科共通の注意事項 | 2 |
| a. ゼミは必修 | 2 |
| b. ゼミの人数 | 2 |
| c. ゼミの募集は第1次、第2次の2回に分けて行われます | 2 |
| d. 4年次以降から演習に参加する場合 | 2 |
| e. 複数のゼミへの参加申込み | 2 |
| f. 高年次で留学を希望する場合 | 2 |
| (2) 個別の注意事項 | 3 |
| a. 経済・経営学科の皆さん | 3 |
| b. 経済工学科の皆さん | 3 |
| c. 21世紀プログラムの皆さん | 3 |
| d. 文系4学部副専攻プログラムの単位として履修希望の文系他学部の皆さん | 3 |
| 3. ゼミ募集スケジュール | 4 |
| 4. ゼミ説明会日程一覧 | 5 |
| 5. 推奨科目一覧（経済・経営学科のみ） | 7 |
| 6. 教員別ゼミ募集要項 | 8 |
| * 経済・経営学演習（経済分析系） | 9 |
| * 経済・経営学演習（産業分析系） | 20 |
| * 経済・経営学演習（企業分析系） | 31 |
| * 経営工学演習 | 40 |

1. はじめに

2006年度に九州大学経済学部が導入したカリキュラムは、全国の主要大学のカリキュラムの研究を通じてその良き部分を取り入れ、なおかつ九州大学経済学部蓄積されてきた独自の研究成果が反映されるように工夫された、オリジナルで体系的なカリキュラムです。

このカリキュラムは、基本科目の体系的配置、大学院への進学容易化(学部・学府一貫教育プログラム)などのほか、3年次以上の演習(以下「ゼミ」と表記)が必修科目となっている点に、大きな特色があります。また2007年度からのGPA制度の全学的導入にあわせて、経済学部の修学指導体制も強化され、3-4年次の学生はゼミの指導教員が学生の修学や大学生活上の指導を担当することになりました。

これらのシステムにより、「経済学部にとりあえず入学したが、経済学になかなか興味を見出せない」「友人と何かと一緒に取り組んで頑張りたいがそのような機会がなかなか無い」など、これまでの経済学部で先輩の一部が直面してきた問題を、学生諸君と教員と一緒に解決していくことが期待されます。

Seminarとは、19世紀にドイツの大学で導入されて以来(そのためセミナーではなくゼミナールと呼びます)、全世界で広範に採用されている大学教育の普遍的な実施形態の一つです。最近「社会性」や「問題発見や解決スキル」を重視する企業が多く、大学での少人数教育がますます重視される傾向にあります。九州大学経済学部のゼミは、教員1名に対して学生が1学年約10名以下の密度の高い少人数教育となります。こうした性格から、同じ「単位」という成績認定方法を採用していますが、通常の講義とゼミとは、その意味内容が大きく異なります。「どのゼミに入るか」によって、「大学で何を学んだか?」のみならず「大学で何をしたか?」が決まるといっても過言ではありません。

皆さんは、この募集要項に記載された「2.ゼミ応募の際の注意」や「3.ゼミ募集スケジュール」などを熟読のうえ、「6.教員別ゼミ募集要項」でできる限り多くのゼミを比較検討し、経済学部HPに掲載される「演習参加申込書」をダウンロードのうえで応募してください。希望するゼミへのチケットが入手できることを祈念しています。

2. ゼミ応募の際の注意

(1) 両学科共通の注意事項

a. ゼミは必修

2006 (H18) 年度入学生より実施のカリキュラムでは、高年次の演習(経済・経営学演習、経済工学演習)は必修科目です。経済・経営学科では8単位、経済工学科では4単位を取得しないと卒業できません。4月になって新年度の演習の履修登録が可能となるのは、募集要項の3で示すスケジュールに従ってゼミに応募し、事前に指導教員から入ゼミを許可された人だけです。従って、皆さんは必ず本冊子を熟読のうえ、手続きに従ってゼミへの受入内諾を各担当教員から得てください。

b. ゼミの人数

ゼミには、学年毎の主演習としての参加可能人数の上限が設定されており、経済・経営学科では第1次募集が10名、第2次募集が1次募集での受講決定数と合わせて10名、経済工学科では第1次募集が約10名、第2次募集が第1次募集での受講決定数と合わせて約10名となっています。

従って受講希望者がその人数を越えた場合には、演習参加申込書による選抜が必ず行なわれることとなります。また、受講希望者が上記以下の場合でも、申込者が一定数に達した演習では選抜が実施されます。

c. ゼミの募集は第1次、第2次の2回に分けて行われます

第1次募集時にはゼミを1つ選び、「演習参加申込書」を1枚提出します。第2次募集時にはゼミを2つ選び、「演習参加申込書」を2枚(第1希望および第2希望)を提出します。

d. 4年次以降から演習に参加する場合

4年次からゼミへの参加を希望する学生は、3-4年次が別の時間帯に設定され演習内容が異なるゼミもありますので、「演習参加申込書」の所定欄に、参加を希望する演習が、①3年次を対象とするものか、②4年次を対象とするものかについて必ず記入してください。

e. 複数のゼミへの参加申込み

複数のゼミを受講することも可能です。

① 新3年生: 「3. ゼミ募集スケジュール」に示す第1次および第2次募集で、まず自分の専攻する学科の中から、自分にとって主となる演習(=主演習)に応募してください。主演習の結果発表後、3月以降に参加を希望する副演習の担当教員へ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。(教員から許可を得た学生だけが4月からの演習に参加することができます。)

② 新4年生: 既に3年次で演習を受講している学生が、4年生になってから「副演習」に応募することも可能です。その場合、主演習の結果発表後の3月以降に、参加を希望する副演習の担当教員へ直接相談のうえ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。(教員から許可を得た学生だけが4月からの演習に参加することができます。)

なお、「副演習」に関しては、自分が所属する学科とは異なる学科の演習に応募することも可能です。それぞれのゼミが「副演習」として応募可能かどうかは、第2次募集の採用結果を掲示する際に、学年別に掲示します。(副演習を募集するゼミと募集しないゼミがありますのでご注意ください。)

f. 高年次で留学を希望する場合

高年次において半年または1年間、海外留学する場合、「演習科目受講願」を学務課(経済担当)にて入手し、記入のうえ担当教員に提出し、教員の了承が得られた場合のみ演習への申し込みができます。

(2) 個別の注意事項

a. 経済・経営学科の皆さん

- ① 「主演習」による「系」の自動決定: 経済・経営学科生は、今回のゼミ募集で受入れが決まった「主演習」の担当教員が属する「系」に従って、「経済分析」「産業分析」「企業分析」の三つの「系」への配属が自動的に決まります(『学生便覧』参照)。所属する「系」ごとに、卒業に向け履修すべき「選択必修科目」が異なりますので、履修の際には十分に注意してください。
- ② 4年次で主演習を変更する場合: 3年次の主演習参加により決まった「系」は卒業まで動かさせません。ただし、4年次になってから、3年次に受講した主演習とは異なる演習の受講を希望する学生は、3年次の「主演習」と同一の「系」内で、参加演習を変更することは可能です。希望する学生は、当該年度向けのゼミ募集の際に新たに新4年次生として応募して、受け入れ内諾を得てください。
- ③ 3年次で主演習と副演習の履修により卒業要件を満たした場合: 経済・経営学演習の必修は8単位ですから、3年次であっても主演習4単位と副演習4単位(ただし、経済・経営学演習に限る。)を同時履修して単位を修得すれば、卒業要件を満たすことになります。ただし、ゼミは単位取得だけを目的とするものではありませんから、できる限り3年次から卒業まで通しで受講するようにしてください。(8単位を超えて修得した単位は8単位まで「自由選択科目」に含めることができます。)

b. 経済工学科の皆さん

経済工学演習の必修は4単位ですから、経済工学科の学生は、①3年次だけ履修、或いは、②4年次以降になってから履修、という受講方法も可能です。ただし、ゼミは単位取得だけを目的とするものではありませんから、できる限り3年次から卒業まで通しで受講するようにしてください。なお、①の場合、早い時期(3年次の1月末まで)に指導教員にその旨を申し出てください。②の場合、上記「(1)d. 4年次以降から演習に参加する場合」に記載されている指示に従ってください。

c. 文系4学部副専攻プログラムの単位として履修希望の文系他学部の皆さん

横断型プログラムの「グローバル時代のビジネス」及び専門領域型プログラムの「経済学・経営学のツールで解く現代社会の諸課題」を履修しており、経済・経営学演習又は経済工学演習を履修希望の学生については、「副演習」募集の際にゼミ申込をしてください。1次募集、2次募集の際は、応募できません。

参加を希望する副演習の担当教員へ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。

3. ゼミ募集スケジュール

ここでは、ゼミの応募にあたっての注意と、手続きについて説明します。第1次、第2次募集の申込期限と内定者発表の流れは以下のとおりです。日時など間違わないように注意して応募してください。

(1) 主演習の応募

| | |
|-------------------|--|
| 11月中旬～ | ゼミ募集要項を、 経済学部ホームページのゼミナール関連情報 (https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~seminar/index.php)で公開します。冊子の配布はありません。 |
| 11月15日(水)～1月5日(金) | オープンゼミ に参加して、教員や先輩の意見を聞き、応募するゼミを決めてください。なお、オープンゼミを開催するゼミと開催しないゼミがありますので、開催の有無、開催方法(対面/オンライン)、開催の日時・場所等はゼミ募集要項やゼミナール関連情報サイトで確認してください。 (※オープンゼミの開催日と履修している授業が重複する場合は、授業への出席を優先すること。) |

(注) **オープンゼミ**とは、通常のゼミの様子(教員とゼミ生とのやりとりや学習内容)を見て感じてもらうために、ゼミの時間を開放する見学会をいいます。**ゼミ説明会**とは、ゼミの特徴や内容などを知ってもらうために特別に開催する懇談会をいいます。

【第1次募集】

| | |
|------------------------|---|
| 1月4日(木)～11日(木) 17:00まで | 「演習参加申込書」に記入の上、 指定の方法で提出 してください。 演習参加申し込みは一人一ゼミです。二つ以上申し込みした場合は無効になります。 また、メールでの提出は認めません。 |
| 1月26日(金) | 経済学部掲示板及び 経済学部ホームページ に第1次募集の内定者名簿を掲示します。 【受入れが未決の学生】→第2次募集での受入れが「可」と表示されているゼミに、必ず応募してください。空きがあれば、第1次募集時と同一ゼミへの再申し込みも可能です。 |

【第2次募集】

| | |
|---------------------------------|--|
| 1月26日(金)～2月1日(木) 17:00まで | 第1次募集内定未決学生は、第1次募集の内定者名簿掲示の際に、第2次募集受入「可」(学年別に表示されるので注意してください)と表示されている演習を選択して、「 演習参加申込書 」を2部(第1希望用および第2希望用)作成し、指定の方法で提出してください。 |
| | ※教員によっては第2次募集期間中に面接を実施することがある。面接を受けられない場合の措置は教員によって異なるので、「演習参加申込書」を提出する前に、希望教員にメール等で確認しておくこと。 |
| 2月28日(水)頃、確定次第随時 | 経済学部掲示板及び 経済学部ホームページのゼミナール関連情報 に第2次募集の内定者名簿を掲示します。 |

(2) 副演習の応募

| | |
|----------------|--|
| 2次募集結果発表後(3月中) | 副演習は3月中が募集期間となります。副演習への参加を希望する学生は、希望するゼミの教員へ相談のうえ、学務課経済担当ではなく、直接、教員へ演習参加申込書を提出してください。 入ゼミの可・否については、ゼミ教員が決めることになります。 ※副演習を募集するゼミと募集しないゼミがありますのでご注意ください。 |
| 4月以降 | 受け入れが決まった演習に履修登録を行ってください。 (受入れ許可が出ていない演習への登録はできません。) |

4. ゼミ説明会日程一覧

| 学科 | 系等 | 教員名 | メールアドレス | 実施日時 | | | 実施形態 (詳細は各教員ページを 確認すること) | 実施場所 | |
|----------|--------|---------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|-------------|-------------------|--------------------------------|-------------------|-------|
| | | | | 月 | 日 | 時間 | | | |
| 経済・経営学演習 | 経済分析 | 加河 茂美 | kagawa@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月17日 | 金 | 16:40-17:30 | 対面 | E-617 | |
| | | | | 12月22日 | 金 | 16:40-17:30 | 対面 | E-617 | |
| | | 中石 知晃 | nakaishi@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月8日 | 金 | 16:40-17:30 | 対面 | E-203 | |
| | | | | 12月15日 | 金 | 16:40-17:30 | 対面 | E-203 | |
| | | | | 12月21日 | 木 | 16:40-17:30 | 対面 | E-203 | |
| | | 八木 信一 | yatsuki@econ.kyushu-u.ac.jp | オンデマンド | | | | | |
| | | 前田 真一郎 | maeda@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月14日 | 木 | 15:00-16:00 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-112 | |
| | | | | 12月21日 | 木 | 15:00-16:00 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-112 | |
| | | 岩田 健治 | iwata@econ.kyushu-u.ac.jp | 募集しない | | | | | |
| | | 清水 一史 | shimizu@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月21日 | 火 | 14:50-15:40 | 対面 | E-112 | |
| | | | | 12月6日 | 水 | 12:10-12:50 | 対面 | 大講義室Ⅱ | |
| | | | | 12月19日 | 火 | 14:50-15:40 | 対面 | E-112 | |
| | | 篠崎 彰彦 | shino@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月12日 | 火 | 12:10-12:55 | 対面 | E-211 | |
| | | | | 12月19日 | 火 | 12:10-12:55 | 対面 | E-211 | |
| | | 水野 敦子 | amizuno@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月28日 | 火 | 16:00-16:30 | 対面 | E-617 | |
| | 12月1日 | | | 金 | 14:50-16:20 | 対面 | E-211 | | |
| | 藤井 秀道 | hidemichifujii@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月14日 | 木 | 14:50-16:20 | 対面 | E-617 | | |
| | | | 12月22日 | 金 | 14:50-16:20 | 対面 | E-211 | | |
| | | | 12月22日 | 金 | 14:50-16:20 | 対面 | E-211 | | |
| | 産業分析 | 與倉 豊 | yokura@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月21日 | 木 | 12:15-12:50 | 対面 | E-202 | |
| | | 堀井 伸浩 | horii@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月22日 | 金 | 12:10-12:50 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-202 | |
| | | 安田 聡子 | yasuda-satoko@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月20日 | 月 | 15:00-15:30 | 対面 | E-112 | |
| | | | | 11月27日 | 月 | 15:00-15:30 | 対面 | E-112 | |
| | | | | 12月21日 | 木 | 12:10-12:40 | 対面 | E-201 | |
| | | 鷺崎 俊太郎 | shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月14日 | 木 | 16:40-18:10 | 対面 | E-208 | |
| | | | | 12月21日 | 木 | 16:40-18:10 | 対面 | E-208 | |
| | | 北澤 満 | kitazawa@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月17日 | 金 | 16:40-17:40 | 対面 | E-323 | |
| | | | | 12月6日 | 水 | 12:10-12:50 | 対面 | E-323 | |
| | | | | 12月19日 | 火 | 14:50-15:50 | 対面 | E-322 | |
| | | 左近 幸村 | sakon@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月8日 | 金 | 16:40-17:10 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-322 | |
| | | 大坪 稔 | otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月11日 | 月 | 16:30-17:00 | 対面 | E-211 | |
| | | 岸野 早希 | sakishino@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月19日 | 火 | 15:00-16:00 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-204 | |
| | | 中本 龍市 | ryunakamoto@econ.kyushu-u.ac.jp | オンデマンド | | | | | |
| | | 企業分析 | 丸田 起大 | maruta@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月30日 | 木 | 12:15-12:45 | 対面 | E-211 |
| | 12月21日 | | | | 木 | 12:15-12:45 | 対面 | E-211 | |
| | 大石 桂一 | | oishik@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月14日 | 木 | 16:40-17:40 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-211 | |
| | 潮崎 智美 | | shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月18日 | 月 | 16:40-17:40 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-206 | |
| | 小津 稚加子 | | ozu@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月5日 | 火 | 15:00-15:40 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-202 | |
| | | | | 12月12日 | 火 | 15:00-15:40 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-202 | |
| | 経済工学演習 | | 阿部 貴晃 | takaakiabe@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月30日 | 木 | 13:00-14:30 | 対面 | E-203 |
| | | 12月11日 | | | 月 | 14:50-16:20 | 対面 | E-204 | |
| | | 藤田 敏之 | tfujita@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月12日 | 火 | 12:15-12:45 | オンライン | オンライン | |
| | | 池下 研一郎 | ikeshita@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月24日 | 金 | 12:15-12:45 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-201 | |
| | | 山崎 大輔 | yamazaki@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月12日 | 火 | 14:50-15:20 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-322 | |
| | | 瀧本 太郎 | takimoto@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月20日 | 月 | 12:15-12:45 | 対面 | E-211 | |
| 12月11日 | | | | 月 | 12:15-12:45 | 対面 | E-211 | | |
| 村尾 徹士 | | mura@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月21日 | 木 | 12:15-12:45 | オンライン | オンライン | | |
| | | | 11月22日 | 水 | 14:30-15:00 | 対面 | E-317 | | |
| 宮崎 毅 | | tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月24日 | 金 | 16:30-17:00 | 対面 | E-317 | | |
| | | | 三輪 宏太郎 | kotmiwa@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月19日 | 火 | 12:10-12:50 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-201 |
| 浦川 邦夫 | | urakawa@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月18日 | 月 | 12:15-12:45 | 対面 | E-202 | | |
| | | | 12月22日 | 金 | 15:00-15:30 | オンライン | オンライン | | |
| 葉 聰明 | | yeh@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月20日 | 月 | 15:00-15:30 | 対面 | E-617 | | |
| 内田 交護 | | kuchida@econ.kyushu-u.ac.jp | 募集しない | | | | | | |
| 堀 宣昭 | | hori@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月15日 | 金 | 16:40-17:25 | オンライン | オンライン | | |
| 室賀 貴徳 | | kiho.muroga@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月16日 | 木 | 12:10-12:30 | オンライン | オンライン | | |
| 菅 史彦 | | f.suga@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月22日 | 水 | 12:15-12:45 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-201 | | |
| 北原 知就 | | tomonari.kitahara@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月14日 | 木 | 12:10-12:40 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-201 | | |
| 大西 俊郎 | | ohnishi@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月30日 | 木 | 16:40-17:30 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-203 | | |
| | | | 12月5日 | 火 | 14:50-15:30 | 対面 | E-318 | | |
| 伊豆永 洋一 | | izunaga@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月19日 | 火 | 14:50-15:30 | 対面 | E-318 | | |
| | | | 小室 理恵 | rie.komuro@econ.kyushu-u.ac.jp | 12月1日 | 金 | 12:15-12:45 | ハイフレックス(対面とオンライン) | E-201 |
| 松本 浩一 | | k-matsu@econ.kyushu-u.ac.jp | 11月15日 | 水 | 12:00-13:00 | オンライン | オンライン | | |
| 古川 哲也 | | furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp | 募集しない | | | | | | |

令和5年度ゼミ説明会 開催時刻・教室

(日付順)

| 月 | 日 | 曜日 | 時間 | 経済分析系 | | 産業分析系 | | 企業分析系 | | 経済工学科 | |
|-------------|-----|-------------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | | ゼミ | 場所 | ゼミ | 場所 | ゼミ | 場所 | ゼミ | 場所 |
| 11月 | 15日 | 水 | 12:00-13:00 | | | | | | | 松本 | オンライン |
| | 16日 | 木 | 12:10-12:30 | | | | | | | 室賀 | オンライン |
| | 17日 | 金 | 16:40-17:30 | 加河① | E-617 | | | | | | |
| | | | 16:40-17:40 | | | 北澤① | E-323 | | | | |
| | 20日 | 月 | 12:15-12:45 | | | | | | | 瀧本 | E-211 |
| | | | 15:00-15:30 | | | 安田① | E-112 | | | 葉 | E-617 |
| | 21日 | 火 | 14:50-15:40 | 清水① | E-112 | | | | | | |
| | 22日 | 水 | 12:15-12:45 | | | | | | | 菅 | E-201 |
| | | | 14:30-15:00 | | | | | | | 宮崎① | E-317 |
| | 24日 | 金 | 12:15-12:45 | | | | | | | 池下 | E-201 |
| | | | 16:30-17:00 | | | | | | | 宮崎② | E-317 |
| 27日 | 月 | 15:00-15:30 | | | 安田② | E-112 | | | | | |
| 28日 | 火 | 16:00-16:30 | 水野 | E-617 | | | | | | | |
| 30日 | 木 | 12:15-12:45 | | | | | 丸田① | E-211 | | | |
| | | 13:00-14:30 | | | | | | | 阿部① | E-203 | |
| | | 16:40-17:30 | | | | | | | 大西 | E-203 | |
| 12月 | 1日 | 金 | 12:15-12:45 | | | | | | | 小室 | E-201 |
| | | | 14:50-16:20 | 藤井① | E-211 | | | | | | |
| | 5日 | 火 | 14:50-15:30 | | | | | | | 伊豆永① | E-318 |
| | | | 15:00-15:40 | | | | | 小津① | E-202 | | |
| | 6日 | 水 | 12:10-12:50 | | | 北澤② | E-323 | | | | |
| | | | 12:10-12:50 | 清水② | 大講II | | | | | | |
| | 8日 | 金 | 16:40-17:10 | | | 左近 | E-322 | | | | |
| | | | 16:40-17:30 | 中石① | E-203 | | | | | | |
| | 11日 | 月 | 12:15-12:45 | | | | | | | 村尾① | E-211 |
| | | | 14:50-16:20 | | | | | | | 阿部② | E-204 |
| | | | 16:30-17:00 | | | | | 大坪 | E-211 | | |
| | 12日 | 火 | 12:10-12:55 | 篠崎① | E-211 | | | | | | |
| | | | 12:15-12:45 | | | | | | | 藤田 | オンライン |
| | | | 14:50-15:20 | | | | | | | 山崎 | E-322 |
| | | | 15:00-15:40 | | | | | 小津② | E-202 | | |
| | 14日 | 木 | 12:10-12:40 | | | | | | | 北原 | E-201 |
| | | | 14:50-16:20 | 藤井② | E-617 | | | | | | |
| | | | 15:00-16:00 | 前田① | E-112 | | | | | | |
| | | | 16:40-17:40 | | | | | 大石 | E-211 | | |
| | | | 16:40-18:10 | | | 鷺崎① | E-208 | | | | |
| | 15日 | 金 | 16:40-17:30 | 中石② | E-203 | | | | | | |
| 16:40-17:25 | | | | | | | | | 堀 | オンライン | |
| 18日 | 月 | 12:15-12:45 | | | | | | | 浦川① | E-202 | |
| | | 16:40-17:40 | | | | | 潮崎 | E-206 | | | |
| 19日 | 火 | 12:10-12:50 | | | | | | | 三輪 | E-201 | |
| | | 12:10-12:55 | 篠崎② | E-211 | | | | | | | |
| | | 14:50-15:30 | | | | | | | 伊豆永② | E-318 | |
| | | 14:50-15:40 | 清水③ | E-112 | | | | | | | |
| | | 14:50-15:50 | | | 北澤③ | E-322 | | | | | |
| | | 15:00-16:00 | | | | | 岸野 | E-204 | | | |
| 21日 | 木 | 12:10-12:40 | | | 安田③ | E-201 | | | | | |
| | | 12:15-12:45 | | | | | 丸田② | E-211 | 村尾② | オンライン | |
| | | 12:15-12:50 | | | 與倉 | E-202 | | | | | |
| | | 15:00-16:00 | 前田② | E-112 | | | | | | | |
| | | 16:40-17:30 | 中石③ | E-203 | | | | | | | |
| | | 16:40-18:10 | | | 鷺崎② | E-208 | | | | | |
| 22日 | 金 | 12:10-12:50 | | | 堀井 | E-202 | | | | | |
| | | 14:50-16:20 | 藤井③ | E-211 | | | | | | | |
| | | 15:00-15:30 | | | | | | | 浦川② | オンライン | |
| | | 16:40-17:30 | 加河② | E-617 | | | | | | | |

5. 推奨科目一覧（経済・経営学科のみ）

経済・経営学科の学生は、各ゼミが推奨する「基本科目」（＝推奨基本科目。以下の表を参照）を受講していることやその成績が、ゼミの選抜の際に参考とされるケースもありますので、その点を考慮して応募してください。

経済・経営学科のゼミ担当教員別 推奨基本科目一覧

| 学科の必修科目 | 1-2年 | | | | | 3-4年 | | 系 |
|--|-------------|-------------|-------------|-----------------|-------------------|---------------------|---------------------|-------|
| | 推奨基本科目 | | | | | 3-4年次演習 (ゼミ)担当教員 | 教員が担当している 専攻教育科目 | |
| | 経済史 I・II | 経営学 I・II | 会計学 I・II | 情報処理I・ 計量経済学 | 国際 経済学 I・II | | | |
| 【学部必修】 ・経済学入門 ＋ 【学科必修】 ・マクロ経済学Ⅰ ・マクロ経済学Ⅱ ・ミクロ経済学Ⅰ ・ミクロ経済学Ⅱ ・政治経済学Ⅰ ・政治経済学Ⅱ ＋ 【ゼミ推奨】 ・右表参照 | | | | | | 加河 茂美 | 経済統計 | 経済分析 |
| | | | | | | 中石 知晃 | 統計計量分析 | |
| | | | | | | 八木 信一 | 地域政策 | |
| | | | | | | 前田 真一郎 | 金融システム | |
| | | | | | ◎ | 清水 一史 | 世界経済 | |
| | | | | | | 篠崎 彰彦 | 情報経済 | |
| | | | | | | 水野 敦子 | 開発経済 | |
| | | | | | | 藤井 秀道 | 現代日本経済論 | 産業分析 |
| | | | | | | 與倉 豊 | 産業配置 | |
| | | | | | | 堀井 伸浩 | 産業構造 | |
| | | | | | | 安田 聡子 | 産業技術 | |
| | | ◎※ | | | | 鷲崎 俊太郎 | 日本経済史 | |
| | | ◎ | | | | 北澤 満 | 日本経済史 | 西洋経済史 |
| | | ◎ | | | | 左近 幸村 | 西洋経済史 | |
| | | | ◎ | | | | 大坪 稔 | 経営政策 |
| | | ◎ | | | | 岸野 早希 | 人的資源管理 | |
| | | ◎ | | | | 中本 龍市 | 経営管理 | |
| | | | ◎ | | | 丸田 起大 | 管理会計 | |
| | | | ◎ | | | 大石 桂一 | 企業会計 | |
| | | | ◎ | | | 潮崎 智美 | 財務会計 | |
| | | | ◎ | | | 小津 稚加子 | 国際会計 | |

注) 以上は2023年度開始時点の情報に基づくが、実際の開講にあたっては、教員の海外研修・新規採用、その他の事情により、一部で追加や変更が生じる可能性がある。

※「経済史Ⅰ」のみ推奨

6. 教員別ゼミ募集要項

| | |
|------------------|----|
| *経済・経営学演習（経済分析系） | 9 |
| *経済・経営学演習（産業分析系） | 20 |
| *経済・経営学演習（企業分析系） | 31 |
| *経営工学演習 | 40 |

経済・経営学演習（加河茂美ゼミ）

| | | | | | |
|--|--|-------|--|---|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 環境経済システム論 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 加河茂美 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 環境問題、資源問題、自然災害問題に関心があること | | キーワード | パリ協定、環境規制、産業、企業、製品、都市、地球温暖化、循環型社会、環境問題、持続可能性、自然災害 | |
| 全体の教育目標 | 環境経済システムという大きな枠組みだけでなく、個別の環境規制策の有効性にも焦点を当て、現代の環境・資源問題の核心について学ぶ。現場見学、他大学ゼミとの合同セミナー、グループ学習などを通して、探究心、考察力を養う。 | | 個別の学習目標 | | |
| 授業の概要 | | | | | |
| 3-4年合同でゼミを行う。 3年生前期：教科書・参考書の輪読・発表（例：環境経済学をつかむ（栗山浩一・馬奈木俊介著）、環境評価入門（鷲田豊明著）、経済効果入門（地域活性化・企業立案・政策評価のツール）（小長谷一之・前川知史）など） 3年生後期：各自関心のある環境・資源・災害問題をテーマにして研究し、発表・質疑を通して問題の本質を理解し、問題解決に向けた政策提言を目指す。 4年生：各自関心のある環境・資源・災害問題をテーマにして研究し、発表・質疑を通して問題の本質を理解し、問題解決に向けた政策提言を目指す。 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 3年生前期：教科書・参考書の輪読・発表・質疑、現地調査、 3年生後期・4年生：自分の問題意識のブラッシュアップ→研究テーマ案の発表→研究テーマの確定→研究→中間発表（9月合同セミナー）→研究→研究発表会・表彰（1月） | | | | | |
| 授業の進め方 ゼミ形式 | | | 教科書及び参考図書 環境経済学をつかむ（栗山浩一・馬奈木俊介著）、環境評価入門（鷲田豊明著）、経済効果入門（地域活性化・企業立案・政策評価のツール）（小長谷一之・前川知史） | | |
| 試験・成績評価の方法等 平常点で評価する。 | | | その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 | | | | | |
| 4月：花見&新ゼミ生歓迎会 5月～7月：バーベキュー、登山、海釣り、スポーツ大会、現場見学 7月：ゼミ旅行（2022年度は老岐） 8月：暑気払い 9月：合同ゼミ（2022年度は谷川ゼミ（名古屋大学）、橋本ゼミ（立命館大学）、重富ゼミ（長崎大学）と岐阜県・恵那峡温泉で実施） 10月：合同バーベキュー（2022年度は北澤ゼミ・藤井ゼミ・中石ゼミ・瀧本ゼミ・潮崎ゼミと実施） 11月：ゼミ同窓会、登山、海釣り、スポーツ大会、12月：忘年会など。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 | | | | | |
| 当ゼミの説明会は対面形式で行います。当ゼミ希望の学生は下記のゼミ説明会に少なくとも1回は参加してください。 第1回ゼミ説明会：11月17日（金）16:40-17:20 第2回ゼミ説明会：12月22日（金）16:40-17:20 | | | | | |

経済・経営学演習

(中石 知晃 ゼミ)

| | | | | | |
|--|--|-------|---|---|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 持続可能な生産と消費 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 中石 知晃 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 環境問題、資源・エネルギー問題等の社会課題に対し、何らかの関心が有ること。 | | キーワード | 環境経済、資源・エネルギー経済、生産性、消費者行動、持続可能な生産と消費、持続可能な開発目標 (SDGs) | |
| 全体の教育目標 | ゼミ活動全体で以下の4つの能力を養うことを目指します。 ①分析力：解決すべき任意課題を見つけ出す力 ②思考力：任意課題の解決方法を考える力 ③実行力：任意課題の解決に実際に取り組む力 ④伝達力：課題解決までのプロセスを他者に伝える力 | | 個別の学習目標 | 任意の社会課題を、社会・環境・経済といった多角的な視点から捉える。 データ分析を通して、任意の社会課題を客観的・定量的に分析・評価する。 | |
| 授業の概要 | | | | | |
| ゼミでは、「環境経済学」や「計量経済学」に関する基本的な知識を習得した後、上記4つの能力を養うことを念頭に、皆さんが任意に設定した卒論テーマ（※SDGsの17の目標のいずれかに関連するものが望ましい）についての調査・分析・報告を、通年で行ってまいります。実際の調査では、アンケート調査や公開データ等をベースに、エクセルや統計ソフトウェア等を用いた実証データ分析を行ってまいります。数学（計量経済学）やPCスキルに不安があっても全く問題ありません、適宜サポートしていきます。 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 3年生前期：教科書の輪読・発表・質疑等をグループで行ってまいります（※教科書は右下を予定）。 3年生後期～：任意の卒論テーマを設定してもらい、設定テーマに関する調査・分析・報告を行ってまいります。4年後期の1～2月頃には調査内容を卒業論文として取り纏め、最終報告会にて発表してまいります。 | | | | | |
| 授業の進め方 | | | 教科書及び参考図書 | | |
| 演習形式で行います。毎回の報告担当者がスライド（パワーポイント）形式で報告し、報告内容に対する質疑・討論等を全員で行ってまいります。ゼミは3年生、4年生、大学院生の合同で行います。 | | | 【教科書】環境経済学をつかむ [第4版]（有斐閣・栗山浩一、馬奈木俊介）；環境経済学の第一歩（有斐閣・大沼あゆみ、柘植隆宏） 【参考書】実証分析のための計量経済学（中央経済社・山本勲著）；地域データ分析入門 すぐに役立つEBPM 実践ガイドブック（林 宜嗣、林 亮輔） | | |
| 試験・成績評価の方法等 | | | その他 | | |
| 平素の成績で評価。 | | | 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |

ゼミの企画、その他特記事項

ゼミ活動における活発な議論は、ゼミ生同士の信頼(友好)関係の上に成り立ちます。また、良い研究のアイデアは、研究室や自宅に引きこもっていても不思議と生まれず、散歩中や友人との会話の中で偶然生まれたりするものです。当ゼミでは、歓迎会、キャリアセミナー、スポーツ大会、山登り、現場見学、合同ゼミ、合同バーベキュー、忘年会、ゼミ卒業旅行、送別会等の様々なイベントを通して、ゼミ生同士は勿論、多種多様な社会人の方々とも積極的に関わり、個々人の知見を十分に広げてもらえればと思います。ゼミの詳しい活動内容や雰囲気等は、ゼミの公式 HP (<https://nakaishizemi.com/>) やゼミ生管理の Instagram 等をご覧ください。

応募に当たっての注意

ミスマッチを避けるため、ゼミ説明会(※対面で実施)へは原則参加して下さい。やむを得ない理由で参加不可能な場合は、nakaishi@econ.kyushu-u.ac.jpにメール頂ければ個別に対応します。ゼミ説明会は、12月8日(金)、12月15日(金)、12月21日(木)の3日間(※各日ともに16時40分～17時30分の間を予定)の日程で開催します。応募多数で選抜となる場合は、志望理由や特定の社会課題への興味関心の度合いを重視します。オープンゼミは実施致しません。

経済・経営学演習（八木信一ゼミ）

| | | | | | |
|--|-----------------------------------|-------|--|--|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 人口減少社会における自治体地域政策と地方財政 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード* | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 八木 信一 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | とくになし | | キーワード | 持続可能な社会、自治体地域政策、地方財政、現場、アクションリサーチ | |
| 全体の教育目標 | 広い意味で「地域」と主体的に関わることのできる人材を養成すること。 | | 個別の学習目標 | 「地域」について「どうなるか」ではなく、「どうするのか」を具体的に提言できるようになること。 | |
| 授業の概要 人口減少と経済のグローバル化が進むなかで、日本においても「地方分権」、「地域主権」、そして近年では「地方創生」という名称のもとで、地域から持続可能な社会をつくるための諸改革が行われてきた。これらの成果については賛否両論あるが、地方自治体による地域政策（以下、自治体地域政策）のイノベーションと、それを促す分権型の地方財政制度の構築が大きなテーマとなっていることは見逃せない。そしてこのゼミでは、この大きなテーマに果敢に挑んでいく。そこではとくに、地方財政やそれに関わる自治体地域政策の実際と、これらの背後にある理論や思想との往復運動を絶えず試みることによって、演習参加者が自治体地域政策に関わる政策提言能力を養えることを目標とした。 | | | | | |
| 授業計画 3年次前期は、地方財政と自治体地域政策に関わる文献を輪読する（令和6年度は地方財政の標準的なテキストに加えて、地域の諸現場における実践（アクション）と研究（リサーチ）を組み合わせた、アクションリサーチに関する文献も取り上げる）。また、ゼミ論文の執筆準備も並行して行う。後期は、ゼミ論文の執筆を行う。4年次前期は3年次生と合同で演習を行い、後期は3年次生のゼミ論文を支援する役割等を担ってもらう。 | | | | | |
| 授業の進め方 文献輪読は①報告、②内容理解のための質疑応答、③議論（受講者数が多い場合はグループに分けて行う）、④教員からのコメント、⑤次回授業までに振り返りレポート（800字程度、3年次前期のみ）の提出、という順番でおこなう。ゼミ論文については、事前に論文を送付してもらい、それをもとに担当教員等がコメントを行う。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書（前期輪読予定分）】 ・菅原宏太ほか(2023)『地方財政の見取り図』有斐閣。 ・平井太郎(2022)『地域でアクションリサーチ』農文協。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 規定の出席回数を前提にしたうえで、演習活動の発展に対する貢献を総合的に判断して評価する。 | | | その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 <u>このゼミの最大の企画は、3年次におけるゼミ論文である。</u> ゼミ生自らが自治体地域政策に関わるテーマを設定し、3名程度のグループ単位で文献整理、統計分析、および現場調査に基づいてゼミ論文を作成する。また、この論文では政策課題の指摘だけでなく、それらの課題を現実的に解決するための政策提言も含んでもらう。そして、調査先の担当者等に論文内容に基づいた結果報告を行い、研究成果を社会へ還元することを最終目的とする。なお今年度は、3年次生がオーバーツーリズムと高齢者のごみ出し支援を、また（他ゼミからの移籍等の）4年次生がふるさと納税を、それぞれテーマに掲げてゼミ論文に取り組んでいる。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 【ゼミ説明会・ゼミ見学について】 ① ゼミ説明会はオンデマンドで行う。 Moodleにおける本演習募集用のコース（詳しくは経済学研究院HPのゼミナール関連情報で情報提供する）に登録したうえで、「いつでも、どこでも、何度でも」視聴できる機会を設 | | | | | |

ける。また、ゼミ生によるゼミ相談会(Zoomでのオンライン)を12月1日に予定している。

- ②ゼミ見学は、オープンゼミ期間中のうち11月と12月のゼミ開催日において、対面参加(ただし、席数に限りがあるので事前受付のみ)とZoomでのオンライン参加(こちらは事前予約不要)で認める。参加方法や日程等、詳しくはMoodleにおける本演習募集用のコースで通知する。

【選考について】

- ①Moodleにおける本演習募集用のコース登録を必須とする(ただし、ゼミ説明会の視聴、ならびにゼミ見学は任意とする)。そのうえで、ゼミ選考は申込書(および面談を行う場合もあり)に基づいて行う。
- ②申込書については記述された内容と分量で評価するが、「志望動機」と「これまでの大学生活で得たもの」は必ず含めること。
- ③面談(Zoomで実施)は、応募人数に関係なく、申込書の内容と分量だけでは意欲や能力等が十分に把握できない志望者、および新年度4年次生以上の志望者に対して行う。(なお、面談に応じなかった場合は不合格となるので、注意すること。)

【その他】

- ①4年次生以上からの新規参加の場合についても、求める学習内容や学習水準は3年生と全く同じであり、ゼミ論文の執筆も義務づける。なお、4年次生以上については、ゼミ論文は卒業論文として位置づけているので、個人単位での執筆を認めている。
- ②当ゼミについても、11月29日(16:30~18:00)に開催される経済学部・学府合同ポスター報告会に参加し、ゼミ論文の途中経過をゼミ生が報告するので、関心のある人は参加していただきたい。
- ③このゼミの特徴は、「地域という現場」と「書くこと」へのこだわりである。地域という現場における様々な課題にしっかりと向き合いたい人、そしてその過程を通して自ら考えたことや学んだことについて書くことで表現したい人は、とくに歓迎したい。これらは一見して地味であるかもしれないが、グローバル社会で求められる姿勢や能力と根底的なところでは共通するものである。なお、担当教員が抱いている「地域という現場」と「書くこと」へのこだわりについては、八木信一・関耕平(2019)『地域から考える環境と経済—アクティブな環境経済学入門』有斐閣を読んでほしい。
- ④地方財政に関わる内容を含んでいるので、公務員志望者も一定の関心があると思われるが、このゼミを受講することによって公務員の一次試験において優位に働くことは全くない。他方で、二次試験以降(論述試験および面接試験)においては、これまでのゼミ卒業生たちの就職実績を鑑みると、ゼミを通じた「厚みのある学習経験」が大きくプラスに作用するようである。しかし、このゼミの最大のアドバンテージは「公務員として何がしたいのか(また何ができるのか)を模索できること」にある。

経済・経営学演習

(前田真一郎 ゼミ)

| | | | | | |
|--|---------------------------------------|-------|--|---|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | グローバル化と金融 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 前田真一郎 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 特になし。 | | キーワード | 金融システム、グローバル化、フィンテック、金融危機、金融規制 | |
| 全体の教育目標 | 研究を通して、自ら考える力を伸ばし、自分の意見を論理的に述べるようになる。 | | 個別の学習目標 | グローバル化する経済のなかにおける金融の役割について自ら考察する。研究成果報告を通じたコミュニケーション能力の向上を図る。 | |
| 授業の概要 金融の理論を踏まえたうえで、現代において世界的に進んでいる事象（例えば、キャッシュレス決済やESG投資など）をもとに、その広がりや金融との関係を幅広い視点で見えていく。演習では、各グループでの研究発表および全体討論を行う。そのうえで、研究成果をプレゼンテーション大会等で発表する。演習において、3年生と4年生は必要に応じて合同とすることもある。 | | | | | |
| 授業計画 第1回 ガイダンス：ゼミの進め方とゼミでの研究について話し合い、目的意識を共有する。 第2回以降 研究発表・討論：各グループでの研究発表および全体討論を行う。 | | | | | |
| 授業の進め方 いくつかのグループに分かれてテーマを選び、研究発表・討論を行います。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 必要に応じて指示します。 【参考書】 必要に応じて指示します。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 平素の成績100%。 (4年時は、平素の成績30%、ゼミ論文70%) | | | その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 ゼミ生の自主性を重視します。グループごとの発表は、質疑応答の時間を長く設けて、ゼミ生同士で議論し発展させていきます。日本とアメリカでの経験も踏まえ、グローバルな視点で研究を進められればと思っています。また親ぼくを深めるため、スポーツやゼミ合宿を行います。合宿等を通じてゼミ生全員が親しくなり、卒業後も長い付き合いができればよいと思っています。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 ゼミ説明会(対面形式)を2回に分けて行います。ゼミ説明会は、自由参加とします(途中入出場可)。また、来学が難しい方は、オンライン形式でのゼミ説明会に参加可能とします。オンライン形式(Zoom)でのアクセス方法等は、Moodle上の「経済・経営学演習(前田ゼミ説明会)(前田 真一郎)」に記載してあります。なお、説明会には、教員に加えゼミ生も参加し、個別に質疑応答の時間も設けます。いずれの説明会にも参加できない場合は、メール(maeda@econ.kyushu-u.ac.jp)のうえ、個別相談に応じます。 | | | | | |

経済・経営学演習

(清水一史 ゼミ)

| | | | | | |
|-------------|--|-------|---------|---|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 世界経済と東アジア | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 清水 一史 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | できれば経済の基礎科目や国際経済学を履修しておいてほしい。 | | キーワード | 世界経済、東アジア、貿易、投資、経済統合、経済発展、工業化、ASEAN経済共同体 (AEC)、CPTPP、RCEP、米中対立、保護主義、COVID-19、ミャンマーの軍事クーデター、ウクライナへのロシアの軍事侵攻、 | |
| 全体の教育目標 | 世界経済と東アジア経済を総合的に理解する。現実の経済を理解出来るようになることを目指す。 | | 個別の学習目標 | 世界と東アジアの貿易・投資、経済統合、東南アジア・NIES・中国の経済発展を理解する。 | |

授業の概要

世界経済や東アジア経済について、数冊のテキストを扱い皆で議論します。最近扱ったテキストとしては、石川幸一・馬田啓一・清水一史編『岐路に立つアジア経済』文真堂、石川幸一・清水一史・助川成也編『RCEPと東アジア』文真堂、石川幸一・清水一史・助川成也編『ASEAN経済共同体の創設と日本』文真堂、木村福成編『これからの東アジア』文真堂、山澤逸平・馬田啓一・国際貿易投資研究会編『通商政策の潮流と日本』勁草書房、末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大出版会などがあります。後期には4年生の卒業ゼミ論文報告や3年生の自由研究報告等を行います。ゼミは3-4年合同で行います。また院生も助言してくれます。

授業計画

第1回はガイダンスで、ゼミの進め方やゼミでの研究について解説します。またテキストを選定し今後の計画を決定します。以降については、第1回の際に参加学生と相談の上、決定します

授業の進め方

テキストの報告者を毎回数人割り当てて、報告者は、報告レジュメを作成し、論点を提示します。またテーマに即して資料を添付します。その後、報告者の論点並びに各自の論点について、皆で議論します。

教科書及び参考図書

石川幸一・馬田啓一・清水一史編『地政学的リスクとアジアの通商秩序』文真堂、石川幸一・馬田啓一・清水一史編『岐路に立つアジア経済』文真堂、石川幸一・清水一史・助川成也編『RCEPと東アジア』文真堂、石川幸一・清水一史・助川成也編『ASEAN経済共同体の創設と日本』文真堂、清水一史『ASEAN域内経済協力の政治経済学』ミネルヴァ書房等。

試験・成績評価の方法等

平素の成績で評価します。

その他

演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

*説明会は、2023年11月21日(火)、12月6日(水)、12月19日(火)の予定です。オープンゼミは、2023年12月19日(火)15時55分～16:40分に対面開催の予定です(E-112教室)。出入り自由です。オープンゼミの前には、ゼミ説明会を対面(予定)で行います(連続での参加も薦めます)。実際に見てみると色々な様子が分かるので、対面での説明会とオープンゼミの参加を薦めます。先輩も、親身に相談に乗ってくれます。ゼミ説明会の案内やURL等は、経済学部HPの「ゼミナール関連情報」、Moodle(2024年度経済・経営学演習 清水 一史)、清水ゼミ Instagram (shimizu_zemi.asean) 等を見て下さい。

- *ゼミでの報告と対話、ゼミの行事等を通して、将来に向けても役立つ事をしっかり学べるゼミと思います。
- *勉強や就職に関しても諸先輩や院生が支援してくれます。
- *大学院への進学を希望する人も是非志望して下さい。
- *ゼミの行事としては、他大学との合同ゼミ、工場見学、バーベキュー大会、同窓会等を開催しています
- *他大学との合同ゼミでは合同ゼミ合宿を行います。2022年度は「現代世界経済の諸問題」をテーマとして、「保護主義—米中対立とコロナショック—」、「CPTPP の意義と拡大」、「メガ FTA と ASEAN—RCEP を中心に—」、「ASEAN の域内格差」、「日本におけるベーシック・インカムの実現可能性に関する考察」等の合同セミナーを行いました。
- *他大学の先生、外務省の方や JICA (国際協力機構) 等の方をお呼びしての講演等も行います。
- *卒業生をも含めて、同窓生のつながりも重視し、同窓会も定期的に開催しています。

応募に当たっての注意

- * ゼミ説明会にできるだけ参加しておいて下さい(もし選抜が必要になった場合についても解説します)。
- * ゼミ生が清水ゼミ Instagram を開いていますので、自由にご覧下さい([shimizu_zemi.asean](https://www.instagram.com/shimizu_zemi.asean)) 。
- * ゼミ選抜基準では、志望理由と動機・やる気を重視します。

経済・経営学演習 / 経済工学演習

(篠崎彰彦 ゼミ)

| | | | | | |
|---|--|-------|--|--|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 経済学で読み解く現代ビジネス | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 篠崎彰彦 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 誠実な意欲と熱意 | | キーワード | 情報化、グローバル化、行動経済学 | |
| 全体の教育目標 | 未知の問題に直面した際、大学で経済学を学んだ者にふさわしい思考と判断ができるようになる! | | 個別の学習目標 | 現代ビジネスの実態把握に必要な情報・資料収集法、先行研究の整理法、基本的統計処理方法などをブレイン・ストーミング型ディスカッションで身につける。 | |
| 授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミでは、現代ビジネスの様々な動向について、情報経済学や行動経済学といった経済学の基本概念を踏まえて、グローバルな観点から理解を深め、思考力と分析力と説明力を高めます。 ・まず、情報の収集方法と整理の仕方、実態の把握と経済学的な理解の方法をブレイン・ストーミング型のディスカッション(ディベート型ではありません)で身につけていきます。その上で、レジュメやレポート・論文の作成方法、事実の統計的な検証法とデータ処理法などを学んでいきます。 ・原則として年次別に毎週4-5限目連続で進めますが、随時3-4年生の合同ゼミを行い、交流を深めます。 | | | | | |
| 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> ・3年次は、情報や文献資料の収集方法、基本的な統計処理法などを身につけ、情報経済、企業経済、行動経済学などの基本概念と現代ビジネスの動きについて、ゼミ生全員が学識を共有できる演習を重視します。この過程で複数の文献(論文、入門書、専門書、報告書)の輪読を行う予定です(英語文献を含みます)。 ・4年次は、ゼミ論集の完成を目標に、各自でテーマを設定し、分析、報告、討論、執筆の作業を主体的に進めます。 ・演習を通じて根拠に依拠した明快な説明力と振る舞い力(課題設定力・資料作成力・即応力・対話力)を身につけます。 | | | | | |
| 授業の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・3年次には、共通のトピックスについて、各自がレジュメを作成し、全員で多様な観点からディスカッションしていきます。言語は全て日本語です。 ・基本文献や資料に加えて、最新の経済問題も積極的に取り上げ、現実の動きから本質へと理解を深めます。 ・エクセルを使った初歩から学ぶデータ処理方法の実習も一部行う予定です。 ・最終的には、全体テーマの中で各自が興味と関心を深めた対象の調査・研究に取り組み、4年次でゼミ論(卒業研究)を完成させ、発表会で報告します。 | | | 教科書及び参考図書 <ul style="list-style-type: none"> ・適宜指定します。2023年度は『デジタル化する新興国』、『スタートアップの経済学』、Leapfrogging Development に関する文献などを取り上げました。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は、①事前準備の取り組み姿勢、②報告者としての発表姿勢、③ディスカッションへの参加姿勢など平素の貢献度合いを全面的に考慮します。 ・演習では日本語による対面での対話力と即応力が求められます。 | | | その他 <p>演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。</p> | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミの運営は、年次ごとの個性と自主性を尊重します。前後の年次のゼミ生との交流、フィールドワーク、自主ゼミ(サブゼミ)、懇親会など、ゼミ生自身による主体的な活動を奨励しています。 ・大学入学後、少しダラけた自分を反省しつつ、これから少しは勉学面を充実させて変化したい! と思っている学生にもってこいのゼミです(今の延長線上で成長しなくてもいい、「変化」することが大切、それが「発展」につながります)。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ・演習参加希望者は、募集期間中(1月4日~11日)に個別に面談の機会を設けて参加希望理由などを伺います(研究室[EE-513]もしくはZoom)。正確な日時や方法はゼミナール関連情報の掲示板やMoodleで別途アナウンスします。 ・オープンゼミは期間中随時行います。自由参加ですので、ゼミナール関連情報の掲示板を参照の上、気軽に参加して下さい。 | | | | | |

経済・経営学演習 (水野敦子 ゼミ)

| | | | | | |
|---|--|-------|--|---|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 途上国経済の実態と課題 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 水野敦子 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | | | キーワード | 開発経済、農村開発、開発政策、格差・貧困、産業化、労働力移動 | |
| 全体の教育目標 | 開発経済の知識、理解を深めるとともに、グループ学習や議論、報告を通じて具体的課題の考察力、ディベート力、発信力の向上を目指す | | 個別の学習目標 | 途上国の経済開発に関する基礎的理論を総括的に学ぶとともに、開発途上国の具体的開発課題について、自ら研究課題を設定し考察を深める | |
| 授業の概要 3年生では、まず開発経済の基本的な理論や知識の習得を目指し、テキストを精読します。そのうえで、参加者の関心に応じて、開発途上国が直面している開発課題について研究課題を設定し、グループで研究を行います。 4年生は、開発経済に関する学術論文を輪読するとともに、個別研究を順に発表し、議論を深めます。研究成果は、3年生はグループ研究レポートに、4年生はゼミ論文にまとめます。 3、4年生合同を基本としますが、適宜別に行うこともあります。 | | | | | |
| 授業計画 3年生：(1～10回) 開発経済に関する基礎的文献の輪読。 (11～20回) グループ研究、学術論文の輪読。 (20～30回) 研究報告、研究レポートの作成。 4年生：(前期) 学術論文の輪読、研究課題の設定。 (後期) 資料の収集とその分析、ゼミ論文の作成 | | | | | |
| 授業の進め方 テキスト輪読、グループ・個別研究は、報告者を順番で割り当てます。学生諸君の発表、討論を中心に授業を進めます。また、適宜学外での活動を実施します。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 適宜指定 【参考書】 適宜指定 | | |
| 試験・成績評価の方法等 輪読の報告20%、ゼミ議論への貢献20%、グループおよび個人研究30%、研究レポート、ゼミ論30% | | | その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 グループ研究の完成、ゼミ論の作成は単位取得の必須条件です。 ゼミでの能動的な学びによって、授業では身に着けることができない能力を向上させることができます。その他のゼミ活動においても、学生の主体的な企画を歓迎します。 例年 9 月にゼミ合宿を行っています。12 月には、インナーゼミ(堀井・鷺崎・北澤ゼミと共催)に参加します。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 希望者は、ゼミ説明会に出席してください。やむを得ず、出席できない場合は、応募前に必ずメールにて連絡してください。 申込書には、志望動機、希望進路を記載してください。応募者には、簡単な面談を行います。応募が多数となった場合は、成績、志望理由、および面談で総合的に判断し選抜を行います。 | | | | | |

経済・経営学演習

(藤井 秀道 ゼミ)

| | | | | | |
|---|--|-------|--------------------------------|---|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 日本経済分析 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 藤井 秀道 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 自ら能動的に研究課題や分析手法を探し出し、積極的な姿勢で演習に参加する学生 | | キーワード | 日本経済分析、生産性分析、ESG、包絡曲線分析法(DEA)、企業データ分析 | |
| 全体の教育目標 | 経済学的な視点から物事を批判的に考察し、代替案・改善案を提案できる能力を身につける。 | | 個別の学習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定能力の育成 2. 情報収集能力の育成 3. 質問する能力の育成 4. プレゼンテーション能力の育成 | |
| 授業の概要 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・藤井秀道ゼミでは「日本経済分析」、「生産性分析」、「ESG」をキーワードとした調査テーマについて、理解を深めていきます。特に企業の財務データに関連したデータセットを活用し、日本経済の競争力を高める上での課題や具体的な取り組みについて、調査・分析を行います。 ・演習を通じて卒業研究テーマを設定し、研究目的及び研究仮説を構築します。研究仮説の検証を進めるために、様々なデータ(日経NEEDS、東洋経済CSR企業総覧、World Development Indicators)を利用します。データの加工・分析を行う上で必要となるPCスキルの向上もゼミの中でサポートします。 ・ゼミは3年生、4年生、大学院生が合同で行います。 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| <p>3年生：生産性分析に関する先行研究調査と分析手法についてグループワーク形式で学びを深める。 その後、個人で卒業研究テーマの選定を行い、学部・学府合同ポスター報告会で報告を行う。</p> <p>4年生：先行研究調査・データ収集・分析の実施・考察を行い、2月に実施される卒論報告会で報告を行う</p> | | | | | |
| 授業の進め方 | | | 教科書及び参考図書 | | |
| 演習形式で行います。受講生による調査内容の報告及び質疑・討論を中心に進めていきます。 | | | 【教科書】適宜指定します。 【参考書】適宜指定します。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 | | | その他 | | |
| 平素の成績で評価します。 | | | 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎会、ゼミ合宿、忘年会、送別会、他ゼミとの合同 BBQ 等を企画しています。 ・学生の留学に対しては柔軟に対応します(留学中にメール、LINE、Zoom による遠隔指導を行います)。 ・4年生はゼミ論文を作成し、最終報告会(2月上旬)で報告してもらいます。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ説明会への参加は必須です。⇒履修している授業との重複などでやむを得ず参加できない場合は hidemichifujii@econ.kyushu-u.ac.jp にその旨、連絡してください。個別に対応します。 ・応募多数で選抜となった場合には志望理由及び調査テーマへの興味・関心の度合いを重視します。特に、志願者のこれまでの活動・取り組み実績を重視して評価を行います。 ・オープンゼミは実施いたしません。 | | | | | |

経済・経営学演習 (與倉 豊 ゼミ)

| | | | | | |
|---|---|-------|---|---|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 経済地理学 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 與倉 豊 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 地域経済や経済地理的現象に高い関心がある者を歓迎する。 | | キーワード | イノベーション, 都市, 文化産業, 創造産業, 再開発 | |
| 全体の教育目標 | 経済地理学関連の学術論文の精読, レジюме作成, 報告, ディスカッションを通じて, 現代の地域経済に関する実態の理解を深める. このゼミでは卒業論文の提出を必須としています。 | | 個別の学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・文献研究により, 独自の研究テーマを探索する. ・基礎的な統計資料の収集・分析により対象地域・産業の概要を把握する. ・実態調査, 論文作成 | |
| 授業の概要 | | | | | |
| <p>◇ゼミでは地域経済や産業地域をめぐる現代的テーマ(題材)に関して, 「経済地理学」を土台とした研究を遂行する. 経済地理学は経済活動の地理的な側面に光を当てる学術分野であり, 対象地域も対象産業も多様である. 担当教員は主に製造業の研究を専門としているが, ゼミで取り扱う産業は農業から商業, 観光業まで幅広く, また対象地域も農山村から大都市まで含まれる.</p> <p>◇ゼミは3・4年生合同で行う. 3年生は事前に指定する経済地理学関連の学術論文に関して, レジюмеを作成し, 報告する必要がある. また基礎的な統計資料の収集・分析など, 地域分析の手法について指導する. なお, 年度末のゼミ最終回を締め切りとして, 地域分析レポートを提出する必要がある.</p> <p>◇4年生は各自で設定する研究テーマに関連した文献報告を行う. 対象地域・産業の調査を行い, 研究の進捗状況について報告する. 以上の成果として, 各自がゼミ論文を提出し, 年度末に発表会を実施する.</p> | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| <p>第1回 ガイダンス: ゼミの進め方, 文献探索の方法, レジюмеの作り方について</p> <p>第2回以降 初回ガイダンスの指示に従い, 文献報告, 研究の進捗状況の報告を行う.</p> <p>ゼミ最終回 4年生によるゼミ論文の発表会</p> | | | | | |
| 授業の進め方 | | | 教科書及び参考図書 | | |
| <p>・演習形式で行う. 文献報告においては, 報告者以外にも事前に取り上げる論文を読み, 論文に関する疑問, コメントなどを Moodle にて提出します. 参加者全員が論文を読んでくることを前提としてゼミを進めます.</p> | | | <p>2024年度は下記の教科書を用いる予定である.</p> <p>半澤誠司ほか編(2015)『地域分析ハンドブック』ナカニシヤ出版.</p> | | |
| 試験・成績評価の方法等 | | | その他 | | |
| ゼミでの報告, ディスカッションへの参加, 地域分析レポート, ゼミ論文をもとに成績評価を行う。 | | | 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 | | | | | |
| ゼミ生はオリジナルな研究の成果として, 4年次にゼミ論文(卒業論文)を執筆する. ゼミ論文は「與倉ゼミ卒業論文集」として製本をし, 関係各所に配布している. 過去の卒業論文の題目は下記の HP を参照してください. https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~yokura/ | | | | | |
| 応募に当たっての注意 | | | | | |
| ◇ゼミ説明会は自由参加です. なお, やむを得ない理由により出席できない場合には, 担当教員にメールにてお知らせください. 個別に対応します. | | | | | |
| ◇申込書には, 現段階で興味関心ある事柄や, ゼミで勉強したい内容, 研究テーマなどを記載してください. | | | | | |
| ◇オープンゼミは12月21日に対面(E-202)にて行う予定です(参加自由). | | | | | |

経済・経営学演習 (堀井 伸浩 ゼミ)

| | | | | | |
|--|--|-------|-------------------------------|----------------------------------|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 中国産業の実証分析 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 堀井伸浩 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 特になし。 | | キーワード | 中国経済、日中産業比較、実証分析、フィールドワーク | |
| 全体の教育目標 | 論理実証主義に基づいた研究分析手法を習得。また中国人留学生とのグループ研究を通じ、生きた中国理解を促す。 | | 個別の学習目標 | 中国の産業分析を通じて、中国の経済発展の動態に関する知見を得る。 | |
| 授業の概要 | | | | | |
| <p>本講義の教育目標は「仮説に沿ってデータを収集・加工し、分析結果をプレゼンテーションする能力」を学生諸君に身に付けてもらうことである。ゼミを通じ、仮説を導き、それをデータで裏付ける科学的な論理実証主義手法を習得できるように、授業計画を考案している。こうした分析能力は研究者を目指す学生諸君はもとより、社会に出て実務に携わる諸君にも有用なスキルとなると確信している。また躍動する中国経済についての実践的な知識の習得も目指す。</p> <p>ゼミ活動は学部生と大学院生（研究生）とがチームを組んで進めるグループ研究を軸に進める。大学院生の多くは中国人留学生であり、そのためゼミは日中の学生による国際的な知的共同作業の場となる。R5年度は「スポーツ産業」「製造業の自動化と雇用問題」「アニメ産業」「サービス産業の自動化」「航空産業の非航空ビジネス」「ゲーム産業」などのテーマについてグループ研究を行っている。新たにゼミに入る新3年生は上記の現在動いているグループのテーマに捉われることなく、自らの希望に沿って新たなグループを立ち上げることを奨励している。なおゼミは3-4年（および大学院生）合同で行う。</p> | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 3年次： | | | | | |
| 4月～7月 オリエンテーション、中国経済・産業分析・グループ研究の設定テーマに関連する文献の輪読 | | | | | |
| 8月 ゼミ合宿に向け、グループごとにリサーチワークに関するコンサルテーション ゼミ研修旅行（行き先中国、日数7日程度。グループ研究のフィールドワークとの位置づけ） →コロナ禍も終わり、遂に2023年に4年ぶりに再開しました（行先：中国海南省） | | | | | |
| 11月 ゼミ合宿（国内2泊3日） | | | | | |
| 12月 北澤・鷺崎・水野ゼミとの研究発表会 | | | | | |
| 4年次： | | | | | |
| 4月～7月 学生諸君と相談して決める | | | | | |
| 8月 卒業（ゼミ）論文作成に向けたコンサルテーション | | | | | |
| 9月 ゼミ研修旅行（詳細は3年次の説明を参照） | | | | | |
| 11月 ゼミ合宿にて卒業（ゼミ）論文構想発表 | | | | | |
| 11月以降、随時卒業（ゼミ）論文指導 | | | | | |
| 12月 神戸大学梶谷ゼミとディベート討論会 | | | | | |
| 授業の進め方 | | | 教科書及び参考図書 | | |
| 学生諸君の発表、討論が中心。課外活動（ゼミの準備やゼミ合宿）もあり、原則出席が求められる。 | | | 適宜、別途指定する。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 | | | その他 | | |
| 平常点を50%、研究発表や卒業（ゼミ）論文を50%で評価。 | | | 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |

ゼミの企画、その他特記事項

- 1) ゼミは週1回の本ゼミと不定期開催(おおむね月に1回)のグループごとにリサーチに必要な文献を輪読するサブゼミで進められる。アウトプットは、ゼミ合宿時のパワーポイント、卒業時に作成するゼミ論文となる(いずれもグループワークによる共同作成)。
- 2) 毎年夏に中国の研修旅行を任意参加で挙げてきた。H21年度は大連・瀋陽・上海、H22年度は山西省・内蒙古、H23年度は湖北省・河南省・北京、H24年度は山西省・江蘇省(南京、蘇州)・上海を巡った。しかし日中関係の悪化から、H25年度は海南省のみとなり、日数も大幅に縮減せざるを得ない状況となり、H26年度とH27年度は休止となった。研修旅行は企業調査など得難い学習機会であるとともに、ゼミ生同士が絆を強める良い機会となっているので極力実施したいと考えており、再びH28年度は天津・北京、H29年度は広東省(深セン)、H30年度は上海、R1年度は天津で再開が可能となった。しかしR2年度およびR3年度は新型コロナで日中とも入国制限が講じられたため、実施が不可能となった。しかし遂にR5年度は中国海南省で再開できたので今後また実施していく予定。
- 3) ゼミ合宿は国内で2泊3日で行うのが通例である。リサーチ成果の報告を行う真面目な合宿であるが、グランドゴルフをやったり、アフターゼミも色々と思えば深いものがあります。
- 4) 北澤・鷺崎・水野ゼミと共同研究発表会を平成21年度より実施しており、R4年度も12月に実施予定。また神戸大学の梶谷ゼミとディベート形式のインゼミを実施している。

応募に当たっての注意

ゼミ選抜基準は志望理由重視です。このゼミに対して何を期待するか、自分は何を貢献できるか(売り込めるか)を記述して下さい。特に入ゼミの条件は設けておりません。

ゼミ説明会は入ゼミ後のミスマッチなどを未然に防ぐためにも極力参加してもらいたと思いますが、ゼミ説明会に参加していないことが選考に影響を及ぼすことはありません。ゼミ説明会に参加できなかった学生さんでゼミのことについて不明な点、聞きたい質問などがあれば遠慮なくメールを下さい。

なお、オープンゼミは実施しません。

経済・経営学演習

(安田聡子ゼミ)

| | | | | | |
|---|---|-------|----------|--|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | イノベーション・マネジメント | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード* | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 安田聡子 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 特になし | | キーワード | 新技術の誕生・普及、知識の商業化、イノベーションのエコシステム | |
| 全体の教育目標 | 新技術誕生・普及により経済効果が発生し社会に影響が及ぶまでの長い過程を、複数の局面から観察・分析する。文献精読、報告、討論の繰返して分析能力とプレゼン力を高める。 | | 個別の学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 良質な最新情報に毎日触れて情報感度を高める。 ・ 文献精読により調査・分析の核となる理論を習得する。 ・ プレゼン・討論・レポート作成により分析結果を説得的に述べる術を磨く | |
| <p>授業の概要</p> <p>新技術が誕生して財（製品・サービス）となり、それが普及して経済価値を生み出し、企業経営や人間生活にまで影響を及ぼす長い過程を「イノベーション・プロセス」と呼びます。このプロセスを「知識創造」、「価値創造」、「価値獲得」という3局面に分け、各局面固有の問題について調査・分析を加えるのがイノベーション研究です。有名な「オープン・イノベーション」論は知識創造局面におけるマネジメントを論じたものです。ビジネス・パーソンに人気の「破壊的イノベーション」は価値創造と獲得に関する議論です。担当教員自身は「知識創造—価値創造」の境目に注目し、モビリティ（機械や人材の移動）が技術の誕生と普及にどのような影響を与えているのかを調査していますが、多様なバックグラウンドを持つ研究者との交流を通して、イノベーション・プロセス全体を念頭に置きながら研究を進めています。</p> <p>こうした研究をしているので、最新技術やヒット商品には常に敏感であろうと心がけていますが、昭和世代のため世の中についていくのは大変です。インスタの登録はしたもの、フォローしているのはNHKだけ、ABEMAをみても何が面白いのかさっぱり分かりません。スマートウォッチを買ってはみたものの、機能が多すぎて使いこなせません。このように「イノベティブでありたい」と奮闘し苦勞している教員を助けてくれる先端的な学生、対照的に古いモノが好きな学生、なんでも普通が良いまったりした学生、海外志向の学生、地元大好き学生など、多様な学生を集めて、互いの価値観を理解し許容しあう「居心地の良い<u>学びの共同体</u>」を創りたいと思っています。</p> <p>ゼミは3・4年合同で行います。事前に指定する文献を読み、その内容について討論し、さらにそこで学んだことを応用しながら<u>現代的な事象を自分の言葉で解説する</u>、ということを繰り返します。</p> <p>評価は「毎回の準備状況」、「ゼミへの貢献」、「期末レポート（あるいは卒業論文）」という3つの評価軸に基づきます。「期末レポート（あるいは卒業論文）」については、分析や記述が充実していることはもちろん重要ですが、「意義ある（そして自分に合った）テーマを発見できるか」を最も重視します。</p> <p>担当教員の海外滞在経験（アメリカの大学院およびイギリスの研究所）に基づきながら、留学指導も積極的に行っています。</p> | | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回目 ガイダンス</p> <p>第2回目以降 初回のガイダンスの指示に従い、文献輪読、プレゼン、討論を進めていく</p> <p>ゼミ最終回 期末レポート（あるいは卒業論文）の報告会</p> | | | | | |

| | |
|---|---|
| <p>授業の進め方 演習形式で行います。教科書の指定箇所を読んでからゼミに参加してください。ゼミではまず教員が指定箇所に出てくる事象やキーワードを取り上げ、ゼミ生に質問をします。ゼミ生は自分なりの解釈や定義について発言してください。続いて、指定箇所に関連する問題を出しますので、グループ単位で解答を考えてプレゼンテーションを行ってください。その後の討論では、鋭い質問、風変りなコメント、ひねくれた意見などを歓迎します。 また、時事ニュースについても頻繁に質問しますので、政治・経済・ビジネスに関するニュースを積極的に収集するようにしてください。</p> | <p>教科書及び参考図書 【教科書】 【参考書】 授業中に指示しますが、過去には下のような文献を講読しました。 ・ 後藤晃『イノベーション』、東洋経済新報社、2016年。 ・ マカフィー&ブリニョルフソン『プラットフォームの経済学』、日経BP社、2018年。 ・ 清水洋『野生化するイノベーション』、新潮選書、2019年。 ・ 加藤雅俊『スタートアップの経済学』、有斐閣2022年。</p> |
| <p>試験・成績評価の方法等 毎回の準備状況：30%、ゼミへの貢献：20%、期末レポート（あるいは卒業論文）：30%、その他：20%</p> | <p>その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。</p> |
| <p>ゼミの企画、その他特記事項</p> <p>みなさんは3期生になります。歴史の浅いゼミですので、ゼミ生の希望や個人特性を考慮しながらフレキシブルにゼミを運営したいと思います。ただし、articulation(明瞭に発言すること)の訓練は繰り返し行います。何かを明瞭に述べるためには、発言を歓迎する雰囲気や聞き手のことを理解するチャンスも必要です。そうした雰囲気づくりのためにも、コンパやゼミ旅行などを積極的に行いたいと思います。</p> <p>先輩たちは、学外のビジネスプラン・コンテストに参加してきました。そうしたイベントへの参加を促し、積極的に指導を行っていきたいと思います。また2023年6月には、関西学院大学商学部の学生と「デザイン思考プロジェクト」という合同ゼミを行いました。2024年もインターカレッジゼミを実施できるように、現在調整中です。なお、大学院進学希望者には補習を実施しています。</p> | |
| <p>応募に当たっての注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゼミ説明会は極力参加してください。お互いに初対面ですので、入ゼミ後のミスマッチを防ぐという意味でも説明会に参加し、希望を述べたり質問をしたりすることが重要です。 ・ オープンゼミへの参加は任意です。日程は「ゼミナール関連情報サイト」でお知らせします。 ・ 応募者多数となった場合は、なるべく多様な個性を持った学生が集まるように、志望理由と成績の両方を参考にしながら選抜します。成績の良い学生、成績は今一つの学生、個性的な学生、生真面目な学生、都会的な学生、素朴な学生、体育会系、文化系、宴会系、オタク系、帰宅系など、さまざまな個性が化学反応を起こすようなゼミにしたいと思っています。したがって、志望理由書はなるべく自分の個性が読み手にも伝わるように書いてください。 | |

経済・経営学演習 (鷲崎俊太郎ゼミ)

| | | | | | |
|---|---|-------|--|--|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 日本経済史と空間経済学 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード* | | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 鷲崎 俊太郎 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 経済史Iの履修が望ましい | | キーワード | 日本経済史・都市経済・長期経済分析 | |
| 全体の教育目標 | 現代都市経済の諸問題を、歴史的経緯と照らし合わせながら、分析できる能力を身につける | | 個別の学習目標 | ライブラリー、ICT、ロジカル・シンキング、プレゼンテーション、論文などリテラシーの養成 | |
| 授業の概要 ・徳川期～近代の日本経済について、現代の諸問題と照合しながら分析できる能力を身につけます。とくに、 都市 や 空間 、 土地不動産 における 社会経済メカニズムの発生源や問題の推移 などを、長期時系列的な視野を持って分析、検討していきたいと思っています。 ・通常のゼミは、①：テキストの輪読、②：半季に1度は校外に出かけてフィールドワーク（FW）、③：①～②の成果をもとに各回のテーマに沿ったプレゼンテーション（PR）を行います。 | | | | | |
| 授業計画 3年次 【2023年度の実績】 4月 輪読 5月 輪読、インゼミテーマ報告 6月 輪読、インゼミ前期中間報告、門司・中津日帰りフィールドワーク 7月 インゼミ前期最終報告 9月 長崎合宿と鹿児島合宿を隔年で開催（今回は、佐世保の海軍施設、長崎の出島、グラバー園、歴史文化博物館、めがね橋、シーボルト記念館などを見学） 10月 輪読、インターゼミ向けリハーサル、 11月 六大学インターゼミ（関西大学西村ゼミ、福岡女子大学櫻木ゼミ、西南学院大学小野寺ゼミ、公立鳥取環境大学谷口ゼミ、同志社大学長澤ゼミ） 12月 東京合宿、4ゼミ合同発表会（堀井・北澤・水野ゼミ） 1月 輪読、ゼミ論文制作、卒論テーマ発表 4年次 【例年の実績（オンライン・対面にかかわらず）】 卒論制作：テーマ発表→資料・データ収集→第1回中間発表（7月）→第2回中間発表（11-12月） →最終発表（1月）→提出 | | | | | |
| 授業の進め方 ※演習方式を基本とします。 ・輪読・PR…報告者にレジュメの作成を、聴衆者に議論の推進を求めます。 ・FW…博物館・工場などを見学します。 ※2024年度につきましても、 対面式でゼミを重視 しつつ、 毎週オンライン設定を行う ので、当日ちょっと体調が悪いという学生、帰省している学生、あるいはゼミ直前・直後に用事のある学生などには、遠隔式で参加できるよう配慮したいと思います。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書：今年度使用したテキスト】 ・高槻泰郎編[2022]『豪商の金融史』慶応義塾大学出版会 ・原武史[2012]『団地の空間政治学』NHK出版 ※来年度は、ゼミの進捗状況に応じて決めます。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 ・出席状況（議論や校外学習への参加を含む、50%） ・PR・論文に対する評価（50%） | | | その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |

ゼミの企画、その他特記事項

1. 「たかが4単位 されどゼミ」

「ガクチカ」、「コミュカ」を、めっちゃ付けさせます！その要素は、①輪読のディスカッション、②プレゼンテーションの仕方、③就活時のOBOGとのコンタクトなどにあります。

| 歴代ゼミ生数 | 合計 | 主演習 | 副演習 副専攻 | 男子 | 女子 |
|-----------------|----|-----|------------|----|----|
| 2009-13年(1-5期) | 48 | 37 | 11 | 30 | 18 |
| 2014-18年(6-10期) | 59 | 47 | 12 | 39 | 20 |
| 2019年(11期) | 10 | 10 | — | 8 | 2 |
| 2020年(12期) | 9 | 7 | 2 | 7 | 2 |
| 2021年(13期) | 3 | 2 | 1 | 2 | 1 |
| 2022年(14期) | 12 | 9 | 3 | 11 | 1 |
| 2023年(15期) | 11 | 10 | 1 | 7 | 4 |

2. 就活への対応には、ゼミOBOGが学生に力を相当貸してくれます！

鷺崎ゼミ生の就活では、まず①志望する業界や企業・公務に勤務するゼミOBOGに、コンタクトをとれる限り、とっていきます。鷺崎ゼミには、**120人を超えるOBOG**が国内外で活躍しており、就職先の業界もバラエティーに富んでいます。(入ゼミパンフレットの「就職先」を参照。)②コンタクトをとったゼミOBOGは、直接での対面はもちろん、ZoomやLINEで随時、相談・話し相手になってくれます。エントリーシートの書き方を学ぶ学生もいました。インターンや会社説明会では言えない、聞きづらい本音を会話し合っています。③そのOBOGから、さらに社内外のお友だち・先輩・後輩を紹介してもらっています。ゼミOBOGも、新卒時に同じような就活をしていたので、ほかのどんな就活生よりも親身になって、あなたの将来を考えてくれます。

3. ゼミは、将来の結婚相手が見つかる場でもあります！

結婚に関して真剣に考えている学生はまだそれほどいないでしょうが、不思議なことに鷺崎ゼミではゼミ同級生同士の結婚が、9年間で3組も誕生しています(公認ルートの情報のみ、風の噂で付き合っているゼミ生男女はもう少々)。学生時代から付き合っていたのかはともかく、学生時代にあれこれと意見をぶつけ合い、しょっちゅう会話を繰り返して、尊敬しつつ、お互いの短所も理解し合っているからこそ、生涯の伴侶を誓い合えるご縁があったのだと思われます。(新郎・新婦の披露宴での祝辞より。)

4. 就職前に歴史を学べるラストチャンス！ 暗記しない日本経済の推移を一緒に学ぼう！

志望する業界や企業の成り立ちを知っていますか？留学や海外出張へ行くと、相手地域の社会経済や文化を学んでも、日本のそれを説明できますか？そもそも、なぜいま自分がそこに存在するか、把握できていますか？知るは一時の恥、知らぬは一生の恥。共通テストの地歴・公民で世界史・地理選択だった方々、大歓迎！現代の経済・経営学を別の主演習で、過去の日本経済の変遷を副演習で学びたい方、ますます大歓迎！文学部の副専攻プログラム生が、累計3名在籍しています。学部横断的に繋がりを持つゼミです。たとえ歴史が苦手でも、必ずやそのアレルギーを解消させて、経済学を楽しくさせてみせます。

応募に当たっての注意

- ① ゼミの現役学生と教員が一丸となって、[入ゼミ用YouTube「鷺崎ゼミちゃんねる」](#)を作りました。「副演習履修の意義」や「就活におけるゼミの存在と重要性」、「フィールドワーク(校外学習)やインゼミ(他のゼミとの研究発表会)のおもしろさ」などなど、ゼミ生と教員が語っていますので、当ゼミ志望の有無に拘わらず、これからどこかゼミに入る皆さんに見てもらいたいです。

Search on Google now!

- ② **入ゼミ用パンフレット**: [ゼミナール関連情報サイト](#)へ、11月中旬に今年度版の掲載を予定しています。
- ③ **オープンゼミ**: **毎週木曜日4~5限** ※遠隔で参加可能です。
- ④ **入ゼミ説明会**: ゼミ時間中に対面で2回実施します。現役ゼミ生との懇親を図り、質問・相談に応じます。**12月14日(木)5限…教員・ゼミ生説明&座談会**, **21日(木)5限…3年生のプレゼンテーションを鑑賞**
- ⑤ 入ゼミ希望者には、「**演習参加申込書**」提出前に**現役ゼミ生&担当教員との面談**を強く推奨します(オンライン可)。アポイントは、shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp宛にメールを送信して下さい。

経済・経営学演習

(北澤 満 ゼミ)

| | | | | | |
|--|---|-------|---|---|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 日本の経済社会について、長期の時間軸で考察する | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 北澤 満 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 推奨基本科目「経済史Ⅰ」を履修済であることが望ましい | | キーワード | 経済史、経営史、産業史、文献・情報検索、文章作成 | |
| 全体の教育目標 | 現代社会経済の諸問題について経緯を踏まえつつ、幅広い視点で分析する能力を養う。 | | 個別の学習目標 | 情報・文献検索、レポート・論文等の作成、および各種プレゼンテーションなど、文系の大学生（大卒）として必要とされる技術、および正しい意味での教養を獲得する。 | |
| 授業の概要 近現代日本の社会経済に関して、諸産業・諸企業の盛衰、企業家、および背景となる文化・制度・慣習などに焦点を当てつつ、幅広く学習します。まずは初学者向けの平易な文献からはじめ、「個別の学習目標」に掲げた諸技術を習得しつつ、個人・グループでの研究へと進んでいく予定です。 当ゼミの最大の特徴は「懐の深さ」です。「教育目標」に掲げた「経緯を踏まえた分析」にさえ留意してもらえれば、時期・対象のいずれについても、狭く限定することはありません。また、狭義の「経済史」、さらには「経済学」といった枠にとらわれず、政治・教育・文化（食生活・芸術・スポーツ・サブカルチャーなど）といった隣接分野に関しても、積極的に越境していきます。 通常のゼミは、テキストの輪読（テキストの内容について報告の後、全体で議論します）、個人・グループの報告（経済成長と公害の発生、食文化の変容などといったトピックに関して、または経営者・思想家など人物に関して、テーマを設定）が中心ですが、「文献検索」・「レポート作成」のような各種ワークショップや、下記のようなイベントを開催する場合があります（参加者の希望により、予定は随時変更してまいります）。なお、通常のゼミは3・4年生合同で行います。 | | | | | |
| 授業計画 第1回 ガイダンス。当年度のゼミ計画を立案します。 第2回以降 テキストの輪読や、各自の報告を中心に行います。ほかに、下記のような企画を予定しています（最終的な決定については、ゼミ生の意思を尊重します） 4～5月 文献検索ワークショップ 9月頃 他大学とのインゼミ（実施する場合） 12月 インゼミ（堀井・鷺崎・水野ゼミと合同） ※コロナ禍以前は、ゼミ旅行、工場見学なども実施していました。こうした行事を実施するか否かは、来年度の社会状況と、参加学生の意向によります。 | | | | | |
| 授業の進め方 基本的には、演習方式です。参加者には、楽しく議論するための準備が求められます。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】今年度は、橘川武郎『イノベーションの歴史』などを使用しました。次年度のテキストは、新3年生とも相談のうえ、決定します。 【参考書】随時指示します。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 出席状況（30%）、報告内容・議論への参加（40%）、ゼミ論文・グループ論文の評価（30%） | | | その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。 | | |

ゼミの企画、その他特記事項

工場見学のようなアカデミックなイベントのほか、飲み会、鍋会などもゼミ生の希望に応じて行っていますが、正規授業以外は、原則として希望者のみの参加です。また、学生の希望がなければ、そうしたイベントを無理強いすることはありません。総じて、コアとなる学習の部分の確保することは必須ですが、ゼミを今後の大学生活の中心とするか、それとも一部分とするかは、参加者の意思にお任せします。

応募に当たっての注意

- ・選考について、1次募集では、それほど成績を重視しません(推奨基本科目についても同様)。すべての面で、現時点での知識量(高校において、日本史履修をしたかどうかなど)も関係ありません。本の読み方、文章の書き方からテーマ設定まで、丁寧に指導します。自分を向上させていこうという気持ち、少しずつでも社会を変えていこうとする意欲があること、これが最大の参加条件です。受け入れに余裕がある場合、厳しく選抜する予定もありません。
- ・「色々と勉強したいという意欲はあるが、まだやりたいことが固まっていない、見えない」という皆さん、応募を歓迎します。当ゼミでの学習のなかで、それは見つけられるはずです。
- ・ゼミ説明会は2回行います。いずれの説明会も対面のみです。選考において、選抜が必要となった場合、説明会への出席者を優遇します。
- ・ゼミ活動については、Facebook ページもご覧下さい。「九州大学 北澤ゼミ」で検索すればヒットします。Facebook アカウントがなくても閲覧できるよう、「公開」設定にしています。
- ・ゼミ募集期間におけるゼミについて、すべて公開します。事前に教員まで連絡のうえ、ご参加下さい。この点については、moodle で詳細を説明します。

<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=33069>

経済・経営学演習

(左近 幸村 ゼミ)

| | | | | | |
|--|---|-------|--|-------------------------------|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | ロシア経済史 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 左近幸村 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 特になし。 | | キーワード | 工業化、ロシア帝国論、グローバルヒストリー、ナショナリズム | |
| 全体の教育目標 | 経済史を研究するとはどういうことなのか、理解する。世界史とロシア史の関連性を理解する。 | | 個別の学習目標 | ウクライナなど、周辺国も含むロシアの歴史を理解する。 | |
| 授業の概要 2022年2月末のロシアによるウクライナ侵攻以来、ロシアやウクライナの歴史に関する記事がメディアに多く登場するようになった。そこで本演習は、両国やその周辺国の近現代史が、最新の研究でどのように論じられているかを、理解することを目的とする。実際のところ、「ナショナリズムとは何か」といった歴史学の基本問題を押さえておかないと、ロシア東欧史は理解できない。そのため演習の内容は、経済史だけでなく、政治史や社会史とも密接に関連したものになる。2年間で出来ることは限られており、分かったことよりも分からないことが増えるかもしれないが、それこそが本演習の本当の狙いである。戦争の原因や解決策を直接考察するものになるとは限らないが、背景の理解に多少資することはあるだろう。 | | | | | |
| 授業計画 現時点で候補として考えている文献は、こちら。 <ul style="list-style-type: none"> ● Alfred J. Rieber, <i>The Struggle for the Eurasian Borderlands: From the Rise of Early Modern Empires to the End of the First World War</i> (Cambridge University Press, 2014). ● Alfred J. Rieber, <i>The Imperial Russian Project: Autocratic Politics, Economic Development, and Social Fragmentation</i>. (University of Toronto Press, 2017). ● Sylvia Sztern, <i>Russia on the Move: Railroads and the Exodus from Compulsory Collectivism, 1861-1914</i> (palgrave macmillan, 2022). ただし、これらは専門的な本なので、読みこなすには英語力だけでなく、それなりにロシア史の知識が求められる。この1年間で、ウクライナ史に関する本や雑誌の特集が日本でもかなり出たので、ウクライナの問題に興味があるというゼミ生が多いのなら、それらを読むという選択肢もある（そのかわり、経済史からは遠くなる）。 | | | | | |
| 授業の進め方 輪読形式の予定 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 上記を参照。 【参考書】 上記を参照。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 平素の成績。 | | | その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 担当教員は下戸なので、コロナの状況に関わらず、飲み会を企画することはない。 | | | | | |

応募に当たっての注意

- オープンゼミは、12月11日(月)4限E-203。この日の議論は、ナショナリズム論の古典であるベネディクト・アンダーソンの『想像の共同体』に関するものになる予定。
- 最初から専門的な知識を身に付けている必要はもちろんないが、分からないことは自分で積極的に調べる姿勢が必要。課題となった文献だけを読めばよいというものではない(ゼミとは、おしなべてそういうものだが)。
- ゼミ説明会への参加は必須ではない。メールでの相談や、アポを取った上で研究室に来るのも可。
- 申請書に記載してほしい情報:なぜこのゼミを希望するのか、分かりやすく書いてくれれば良い。成績よりも志望理由を重視する。
- ロシア語を読める必要はない。

経済・経営学演習（教員名 大坪 稔）

| | | | | | |
|---|------------------------------|-------|---|-------------------------------------|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 経営財務の基礎 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 大坪 稔 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 経営学 I・II | | キーワード | 資金調達、キャッシュフロー、株価 | |
| 全体の教育目標 | 経営財務を中心として、企業経営について幅広く学習します。 | | 個別の学習目標 | 財務の側面から企業活動について理解・評価することができるようになること | |
| 授業の概要 3・4年生合同でゼミを行う。「経営財務」とは資金の調達や運用など、企業経営のうち資金に関係する分野を対象とした学問である。たとえば、企業にはどのような資金調達の手段があるのか？(株式市場から調達するのか、あるいは銀行から借り入れるのか？)そして、調達した資金を複数ある投資案件のどれに投下するのか？(複数ある投資案件のなかからどの投資案を実行するのか？)といった問題について学習していきます。 | | | | | |
| 授業計画 第一回 ガイダンスと参加者の自己紹介 第二回 ゼミの実施 | | | | | |
| 授業の進め方 あらかじめ報告者を決めておき、報告者にテキストの内容を報告してもらった後、他の参加者から質問をしてもらい、その質問内容について討議していく。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 未定 【参考書】 | | |
| 試験・成績評価の方法等 平素の出席を前提とし、発言および課題提出で評価 | | | その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・4月に新歓合宿(1泊)、夏季休暇中にゼミ合宿(2泊)と、年2～3回の懇親会があります。 (HPを参照：http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~otsubo/) ・テキスト報告と並行して、実際の企業の財務データを基に企業分析を行っていただきます。 ・3年の夏季休暇中に、各自が選択した研究テーマに関する論文を書いていただきます。 ・4年の後半に就職内定先の企業・業界を対象とした論文を書いていただきます。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 登録を希望する学生は、できるだけ説明会に出席してください。なお、他の講義への出席などの「正当」な理由で説明会へ出席できない学生は、事前にメール(otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp)にて連絡をしてください。その場合は個別に対応します。 選抜が必要な場合は、説明会への出席の有無や書類選考により選抜を行います。 | | | | | |

経済・経営学演習 (岸野 早希 ゼミ)

| | | | | | |
|--|---------------------------------|---------|--|-------------|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | 講義題目 | 人的資源管理 | | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | 授業科目コード | — | | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 岸野早希 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 経営学 I ・ II | キーワード | 人的資源管理、組織行動 | | |
| 全体の教育目標 | 専門知識を活かして物事を様々な角度から考えられるようになること | 個別の学習目標 | 企業経営における「ヒト」という経営資源の重要性を理解すること | | |
| 授業の概要 | | | | | |
| このゼミでは人的資源管理論や関連分野である組織行動論、経営組織論を中心とした研究を行っていきます。3年次には教科書の輪読やチーム研究を通じて卒業論文に向けた専門知識の習得や研究方法を学びます。また、これらの活動を通じて卒業論文につながるテーマを見つけてもらい、4年時にはそのテーマに基づいた卒業論文に取り組んでもらいます。 通常は3・4年別で実施しますが、夏休みゼミや卒論報告会では3・4年合同で実施します。 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| ＜前期＞第1回 ガイダンス、第2回～ 指定図書の輪読、チーム研究 ＜後期＞合同ゼミに向けたチーム研究、卒業研究 | | | | | |
| 授業の進め方 | | | 教科書及び参考図書 | | |
| 前期：指定図書の輪読が中心 後期：チーム研究、発表準備が中心 | | | 【教科書】 上林 憲雄・厨子 直之・森田 雅也(2018) [新版]『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣 【参考書】 | | |
| 試験・成績評価の方法等 | | | その他 | | |
| 出席、課題への取り組み、ゼミへの貢献を総合的に評価します。 | | | 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの議論や研究を行いますので必然的に人との関わり合いが多くなります。 ・他大学との合同ゼミを実施しますので、授業時間外での活動や遠征費が発生します。 ・卒業論文を書きます。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加を希望する場合は必ずゼミ説明会へ出席してください。説明会はハイフレックスで開催する予定です。(※説明会が授業と重複する場合は、メールをいただければ資料を共有します) ・オープンゼミはありません。 ・ゼミの志望理由書については「なぜ本ゼミに参加したいのか、将来どのようなキャリアを考えているか」という点を必ず含めて作成してください。 ・応募人数の如何に関わらず面接をしますので、申込書に必ず連絡がとれるメールアドレスの記載をお | | | | | |

願います。(※面接はオンラインで実施予定)

- 応募多数で選抜となった場合は、志望理由書、成績、面接の内容をもとに総合的に判断します。
- 経営学Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましいです。
- ゼミ説明会に関する zoom の URL 等の情報は Moodle の「2023 年度通年・火 4 火 5・経済・経営学演習:3 年生(岸野 早希)」の第 15 回に記載する予定ですので、ご確認ください。

経済・経営学演習

(中本龍市 ゼミ)

| | | | | | |
|--|--|-------|--|---|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 経営組織 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 中本龍市 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 経営学Ⅰ・経営学Ⅱの履修が望ましい | | キーワード | 経営学、経営組織 | |
| 全体の教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・経営学の分析枠組みを利用して、組織の分析ができるようになること ・プレゼンテーション能力(書く能力と話す能力)を獲得すること | | 個別の学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・経営学や社会学の考え方を使えるようになること ・定性的、定量的な調査・分析ができるようになること ・対話を通して相手の主張を理解できるようになること | |
| 授業の概要 この演習では、質的研究と量的研究の双方の手法を通して、社会現象、その中でも、特にビジネスに関わる現象を理解することを目的とします。 | | | | | |
| 授業計画 第一回 イン트로ダクション 第二回 プレゼンテーションと討議 …以降続き。 | | | | | |
| 授業の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・輪読 ・報告 ・討議 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 牛島 辰男(2022)『企業戦略論：構造をデザインする』有斐閣 | | |
| 試験・成績評価の方法等 参加、発言、課題の提出(合計で100%) | | | その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・特にない。 ・オンラインなどでインゼミを行うことがある。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミの説明会はオンデマンド方式です。YouTube で随時ご覧ください。 ・オープンゼミは随時実施しています。 ・質問があれば教員にメールで問い合わせてください。ryunakamo@gmail.com ・現在所属している先輩方に直接おたずねになった方がゼミの雰囲気が伝わるとおもいます。 ・応募書類に、「先輩を経由して聞いた情報」を必ず含めてください。 | | | | | |

経済・経営学演習 (丸田起大 ゼミ)

| | | | | | |
|---|-------------------------|-------|--|-------------|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 管理会計 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 丸田 起大 (まるた・おきひろ) maruta@econ.kyushu-u.ac.jp | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 会計学Ⅰ・Ⅱを履修していること | | キーワード | 会計学・経営学 | |
| 全体の教育目標 | 管理会計の基礎知識と実務への応用力を身につける | | 個別の学習目標 | | |
| 授業の概要 管理会計とは、経営者・管理者の意思決定・業績評価のために、組織の内部者向けに作成・活用する会計です。財務会計とは違い、管理会計は企業ごとに個性があり、優れた企業には優れた管理会計の仕組みがあります。管理会計情報は、インターネットで検索しても見つけることができない、企業秘密の情報です。そのため、管理会計のノウハウは、同業他社や異業種へ転職する際にも、魅力的なスキルとして評価されています。ゼミでは、教科書等で公表されている情報に加えて、様々な業種の組織から特別に入手した社内資料も活用します。そのほか、公認会計士試験や簿記検定などの各種資格試験の過去問題も活用して、力試しをします。このゼミの特色は、会計学と経営学の両方の知識を身に着けたうえで、実際に実践してるところです。ゼミは、原則として3・4年生合同(大学院生も参加)で実施しています。 | | | | | |
| 授業計画 (3年次) 前期:管理会計の基礎知識を習得するために、教科書の発表・質疑、各種資格試験レベルの計算練習、ケーススタディなどをおこなった上で、九大祭出店の戦略立案・商品開発・試作・原価計算・価格決定・アンケート調査を進めます。後期:九大祭出店を実施し、結果を財務諸表としてまとめ、予算差異分析などをおこなった上で、他大学とのゼミ交流で研究成果を発表し、共同研究の成果として論文にまとめます。 | | | | | |
| 授業の進め方 テキストの各章の担当者を割り当て、パワーポイントによる報告者のプレゼンテーションにもとづいて、全員参加によるディスカッションをおこないます。九大祭出店の結果を分析したり、個人・グループでフィールド調査に向いて、成果を個人論文・共同論文としてまとめ、発表会を実施します。 | | | 教科書及び参考図書 参考として、過去に使用した教材を挙げておきます。MBA テキストなど英文教材を採用する場合があります。 ・ジャンバルボ『管理会計のエッセンス』同文館 ・浅田孝幸『管理会計・入門』有斐閣アルマ ・國部克彦『1からの管理会計』中央経済社、など | | |
| 試験・成績評価の方法等 出席状況(ゼミ、各種行事、フィールドワーク) 参加態度(プレゼンテーション、ディスカッション) ゼミ論文(3年次は共同論文、4年次は個人・グループ論文) | | | その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 九大祭への出店によるビジネス体験、管理会計の実務担当者へのインタビュー、企業からのゲストスピーカー招聘、経済学部ポスター発表会への参加、他大学とのゼミ交流(実績:北海道大学、中村学園大学、下関市立大学、熊本学園大学など)、OB/OG との交流などを実施しています。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 ・ <u>ゼミ募集に関する連絡は、経済 HP の「ゼミ関連情報」サイトからおこないます。</u> ・オープンゼミは実施しません。 ・応募は <u>ゼミ説明会への参加を必須とします(出席を記録に残します)</u> 。事情により参加できない場合は、 <u>事前にメール(maruta@econ.kyushu-u.ac.jp)で相談してください。</u> ・選考の参考とするために、演習参加申込書には、志望理由、ゼミ説明会の感想、進路希望(民間・公務員・専門職・進学など)、所属サークル、アルバイト歴、自己 PR、および連絡用のメールアドレス(PC とケータイの両方)を必ず記載してください。 <u>記載に不足がある場合は選考に影響する可能性があります。</u> また必要に応じて面談をする場合があります。 ・このゼミは、例年、副演習は募集していません(副専攻プログラムの他学部生を除く)。 | | | | | |

経済・経営学演習

(大石桂一ゼミ)

| | | | | | |
|---|--|-------|--|-----------------------------------|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 企業会計 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード* | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 大石桂一 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 会計学Ⅰ・Ⅱを履修していること | | キーワード | 会計、財務諸表、企業分析 | |
| 全体の教育目標 | 会計情報を使いこなせるようになること、グループ・ワークができるようになること、およびプレゼンテーションとディスカッションの能力を高めること。 | | 個別の学習目標 | 財務会計の制度と理論を理解したうえで、企業を分析する力を養うこと。 | |
| 授業の概要 本演習では、会計を有用な道具として使いこなせるようになることを目標としている。そのためにはまず、会計制度とその背後にある理論を理解することが必要である。プレーを楽しむためには、ある程度はルールを学ばなければならないからである（つまり「ルールの学習」と「実際のプレー」とのバランスが重要なのである）。そのうえで、実際に会計情報を使って様々な分析を行う。 また、ゼミは基本的に3・4年生合同、2コマ連続で行う予定である。なお、必要に応じてサブゼミを行うこともある。 | | | | | |
| 授業計画 前期は、基本的なテキスト（受講者と相談の上で決定する）をもとに、財務会計の制度と理論について理解し、後期にはそれを応用して具体的な分析・研究を行うことを考えている（グループ・ワーク）。後期の具体的な分析・研究内容については、受講者の理解と関心に応じて決定する。 また、年度末には各自あるいはグループでの分析・研究の結果をゼミ論文にまとめてもらう。 | | | | | |
| 授業の進め方 あらかじめ報告者（グループ）を決め、プレゼンテーションとディスカッションの形式で行う。 | | | 教科書及び参考図書 教科書・参考書は受講生の関心等を勘案し、相談のうえ決定する。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 平素の成績（プレゼンテーションのレベル、ディスカッションの内容と積極性、および勤勉性）と年度末のゼミ論文で評価する。 | | | その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・本演習では学生による自主的な運営を旨とする。テーマや分析対象の選定、ゼミ合宿や飲み会の企画、学園祭への参加、インゼミの開催、および工場見学や企業訪問の計画など、自由に意見を出し合って、相談してほしい。その際に私はアドバイザーとしての役割を果たす。 ・年度末のゼミ論文（個人で書いてもよいし、グループで書いてもよい）の提出は必須とする。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ・オープンゼミは実施しない。 ・受講希望者はゼミ説明会には必ず参加すること。授業との重複など、正当な理由により参加できない場合は、メールにて連絡のうえ（oishik@econ.kyushu-u.ac.jp）、指示を仰ぐこと。 ・希望者多数の場合は、申込書に基づき選抜する。選抜に当たっては志望理由を重視する。 ・推奨基本科目（会計学Ⅰ・Ⅱ）の履修（単位取得ではない）を応募の条件とする。 | | | | | |

経済・経営学演習 (潮崎智美ゼミ)

| | | | | | |
|---|---|-------|---|----------------------------|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 財務会計 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 潮崎智美 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 会計学Ⅰ、会計学Ⅱを履修していることが望ましい。 | | キーワード | 会計学、財務会計、企業分析 | |
| 全体の教育目標 | ビジネス・パーソンとなるのに不可欠な会計学の知識やスキルを習得することを目的としています。 | | 個別の学習目標 | 財務諸表が読める。 企業を総合的に分析できる。 | |
| 授業の概要 | | | | | |
| 本演習では、株主や債権者等の企業外部の利害関係者に対して報告をする「財務会計」を、新聞記事や雑誌記事などを多用して学習すると同時に、インターネットやデータベースなどを通じて収集した会計情報を分析する「企業分析」の手法を学びます。ゼミは基本的に3・4年合同で開催する予定です。 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 第1回目のオリエンテーションの後、前期は「財務会計」または「企業分析」領域の文献の輪読(3・4年生)を行います。後期、3年生は例年日経STOCKリーグ(https://manabow.com/sl/)に参加して、バーチャル投資を行い、グループワークにより財務諸表分析をベースとした論文を完成させます。グループワークでは、インターネット情報、新聞・雑誌記事、図書館資料、データベースなどを用いて企業の財務情報および非財務情報を収集し、投資テーマを選定して分析対象企業を選択し、企業分析や業界分析を行います。4年生は、学生それぞれの進路に沿ったテーマを選択し、卒業論文を執筆します。 ゼミ論文や卒業論文は、グローバル化が進むなかで、グローバル企業やローカルな企業がどのようなビジョンや戦略を持って企業活動を行い、どのような成果を挙げているかを重視したものとします。 | | | | | |
| 授業の進め方 担当者によるテキストや研究内容の報告 ⇒ディスカッション | | | 教科書及び参考図書 【教科書】学生の適性や希望を考慮の上、決定します。参考までに、令和4年度は、伊藤邦雄(2022)『新・現代会計入門 第5版』日本経済新聞社、令和5年度は、伊藤邦雄(2021)『企業価値経営』日本経済新聞社を輪読しました。 【参考書】ゼミ内で指示します。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 出席状況、授業態度(ゼミへの関わり方や発言内容)レポートなどにより評価します。 | | | その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ゼミ論文・卒業論文を作成し、報告してもらいます。 インターゼミ、企業訪問、講演会、交流会などを行う予定です。ゼミ合宿、ゼミコンパなどは、学生の自主性を尊重して決定します。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> オープンゼミは実施しません。 ゼミ説明会を実施します(場所日時は別途指示します)。参加必須ですが、やむを得ず参加できない場合には、その旨、メールで知らせてください。shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp 申込書には、簡単な自己紹介・自己PRに加え、大学生活においてこれまでに何をしてきたか、これから何をやる予定であるか、大学を卒業して何をやるつもりかを含めてください。 選考が必要な場合には、まず志望理由を重視し、成績も考慮したうえで決定します。 | | | | | |
| 演習参加申込書の提出方法(※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。) | | | | | |
| 第1次募集 <input type="checkbox"/> 手書き <input type="checkbox"/> Wordファイル <input checked="" type="checkbox"/> いずれも可 第2次募集 <input type="checkbox"/> 手書き <input type="checkbox"/> Wordファイル <input checked="" type="checkbox"/> いずれも可 | | | | | |

経済・経営学演習 (小津ゼミ)

| | | | | | |
|--|---|-------|---|--|------|
| 授業科目名 | 経済・経営学演習 | | 講義題目 | 財務会計と財務報告を学ぶ | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード* | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 小津 稚加子 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 会計学Ⅰまたは会計学Ⅱが推奨科目です。 | | キーワード | 財務会計の基礎の振り返り、財務報告、企業の取り組み、グループワーク | |
| 全体の教育目標 | ・財務諸表の読み方・見方、学部レベルでの専門的な文章の書き方、プレゼンの仕方の習得 | | 個別の学習目標 | ・それぞれの関心にしたがって目標を立てて、新たな時代の財務報告について理解を深めること。 | |
| 授業の概要 このゼミでは、企業の会計や財務報告について理解を深めます。まず、財務諸表を読むための基本を、教科書をつかって復習します。つぎに、新たな時代における企業の財務報告について、書物や報告書を読み、企業の事例を調べます。 一例として、SDGsとは、持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。ゼミに入る学生さんは、それぞれの興味、関心を大切に「持続可能」な時代を意識して、深掘りしたいテーマを選ぶことができます。例えば、水、食品ロス、教育の機会といった身近な話題から、女性管理比率や男性育児休暇率、リスクリング（学び直し）など人的資源の管理など、さまざまな題材があります。ゼミの時間に互いに関心を紹介しあうことで、それぞれが視野を広げていくのが目標です。 | | | | | |
| 授業計画 春学期・夏学期： ・4月から6月：教科書の輪読をつうじて、①企業の経営分析を修得する。②企業の財務報告の仕組みについて理解を深めます。 ・7月：復習と秋学期以降の学習計画（調査対象企業の選択など） ・9月末または10月初旬：他大学との合同ゼミを予定しています。 秋学期・冬学期： ・10月から：新たな時代の財務報告を軸として、学生自身がテーマを選びます。後学期は『修了研究』の作成をします。各自、基本文献や論文を読んで、ゼミで少しずつ発表していきます。有価証券報告書や決算報告書をつかって、財務情報が新しい情報（*）と組み合わせるどのように報告されているか、確かめます。修了研究の草稿はPPTを作成し、口頭報告をします。 *新しい情報の例：2023年度のゼミ生は、次のものを選びました。地政学リスク、女性管理比率や男性育児休暇率、男女賃金格差、中小企業のSDGs、貧困、財務諸表のDX化、経営者による業績予想、環境情報の開示。 | | | | | |
| 授業の進め方 ・輪番で教科書を読みます。 ・順番に、報告・質問・司会担当を持ち回ります。 ・レジュメは、原則、事前（2日前くらい）の提出を推奨します。事前準備をしてからゼミに臨みます。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 桜井久勝著『財務会計講義』 【参考書】 さしあたり、太田康弘『ビジネススクールで教える経営分析』日経文庫、を紹介します。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 ・出席を前提とします。 ・平素のゼミ活動（予習、発言、役割など）を考慮して総合的に判断します。 | | | その他 ・演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 ・『修了研究』を全員で作成します。ひとりまたはグループで論文を作り、それらをまとめて冊子体にします。 ・毎年、夏季(10月初旬)に大分大学とオンラインで合同ゼミをしています。 | | | | | |

・卒業生は、公務員試験、国家試験(税理士、公認会計士等)、語学留学、サークル活動とゼミ活動を両立してきました。各種試験を受けるひとは、試験前の週に自主学習日を取ることができます。

応募に当たっての注意

・ゼミ説明会は次の通り。

第1回:12月5日(火)15:00~15:40。オンラインと教室で同時開催します。

第2回:12月12日(火)15:00~15:40。オンラインと教室で同時開催します。

※教室でゼミの様子を見たいひと、先輩に会って話をしたい方はイースト2号館205教室に来てください。

★ゼミ説明会の Zoom URL は、以下の Moodle のなかの「ゼミ説明会」の回にて取得できます。

<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=49912>

科目名:2023年度通年・火4火5・経済・経営学演習①, 経済・経営学演習②(小津 稚加子)

★ゼミ説明会では、現役生がゼミの活動内容、学生生活やいま取り組んでいる研究、進路について紹介します。

★ゼミ説明会は必ず出席してください。

説明会に参加できなかったひと、また、質問があるひとは、ozu@econ.kyushu-u.ac.jp へどうぞ。

経済工学演習 (阿部貴晃ゼミ)

| | | | | | |
|---|---|-------|---|---|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | ゲーム理論とマイクロ経済学 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード* | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 阿部貴晃 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 特になし | | キーワード | ゲーム理論・マイクロ経済学・シミュレーション・協力・実験経済 | |
| 全体の教育目標 | 他者に論理的に分かりやすくアウトプットできる。他者の報告に対してコメントすることができる。 | | 個別の学習目標 | ゲーム理論・マイクロ経済学を専門的に学ぶ。モデルを作成して、社会的事象を分析し議論できる。 | |
| 授業の概要 ゲーム理論とマイクロ経済学への応用を学習します。3年生はゼミメンバーで共通の教科書を読みそれぞれが発表を行う形式(輪読)です。4年生は各自が興味を持った内容でゼミ論文を作成することを目標とします。今年度のゼミ生が第2期生となります。 | | | | | |
| 授業計画 ゼミメンバーで相談して決定します。 | | | | | |
| 授業の進め方 各受講者が、それぞれの割り当てられたテキストの章を順々に発表します。発表者以外は質問とコメントをします。4年生はゼミ論文の進捗を報告します。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 ゼミメンバーの興味に応じて決定します。 【参考書】 | | |
| 試験・成績評価の方法等 平素の成績で評価します。 | | | その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 ゲーム理論を用いて自分でオリジナルのモデルを組み立てて分析できるようになることを目指します。卒業時に、「大学でこのような研究をしていました」と言えるようになることを目標とします。担当教員はお酒を飲みませんが、ゼミ合宿や食事会などはゼミ生の希望に応じて開催します。ゲーム理論・モデル分析に興味のある方を歓迎します。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ・今回募集のゼミ生が第2期生となります。人材を積極的に募集中です。当ゼミは事務的都合で昨年度の第1期ゼミ生募集がほぼ行えなかったため、とても少人数です。毎週木曜日の4限(14:50-)に研究室(E-E-420)にて、ゼミを行っておりますので自由に見学にお越しください(オープンゼミ)。現在は、レンタル自転車(シェアサイクル)やレンタルバイクを、どのポートにどれだけ配置するのが効率的かを分析しています。事前連絡も不要です。少人数ですので見学に来ていただいた段階で自己紹介が完了します。 ・「ゲーム理論に関心がある」「楽しく議論できる」方を歓迎します。今後の当ゼミの文化を一緒に作ってくださる方をお待ちしています。ミスマッチを避けるために、応募締切後に対面か zoom で個別に簡単な打ち合わせをします。ゼミ説明会は2回実施しますので、どちらかに極力参加してください。ゼミ説明会にもオープンゼミにも参加できなかったが応募したい場合はメール takaakiabe@econ.kyushu-u.ac.jp にてご相談ください。また、個別の相談や問い合わせも、メールか直接研究室にて受け付けています。 | | | | | |

経済工学演習

(藤田 敏之 ゼミ)

| | | | | | |
|---|---|-------|--|--|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | 中級の環境経済学とゲーム理論の学習 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 藤田 敏之 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 積極的に学習し、協調的な人。できれば大学院への進学意志のある人。 | | キーワード | 環境規制, 外部性, 環境評価, 資源, 廃棄物, 非協力ゲーム, 戦略, 均衡 | |
| 全体の教育目標 | 環境経済学, ゲーム理論を深く学ぶ。報告を行い他人の報告を聞くことによって効果的なプレゼンテーションの仕方を学ぶ。 | | 個別の学習目標 | | |
| 授業の概要 教員の専門である環境経済学とゲーム理論の入門から中級までの内容を学ぶ。3年ゼミでは教科書を読み、環境経済学とゲーム理論の基本的内容をしっかり身につける。4年ゼミでは3年次の学習を踏まえて環境のゲーム理論的分析に関する論文や研究書を読み、専門的な分野にふみこんで学習する。現在のところ、3・4年ゼミは合同で行う予定である。ゼミ論文を課すことはしないが、年度末には全員にレポートを課す。 | | | | | |
| 授業計画 前期、後期ともに以下の予定で進める。もちろん受講者数によって細かなスケジュールは変化する。 第1回・・・ガイダンス, 自己紹介, 第2回, 第3回・・・教員による補足的講義 第4回以降・・・受講者による報告および討論 (受講生1人につき各期最低1回の発表をお願いしたい。) | | | | | |
| 授業の進め方 演習形式で行う。教員が講義をするのではなく、テキストの章を割り当てられた受講者の発表と討論によって授業を進める。報告者が責任をもった報告を行うことと受講者の積極的な参加を希望する。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】未定。R5年度は栗山・馬奈木『環境経済学をつかむ』有斐閣, 岡田『ゲーム理論入門 新版』有斐閣アルマを使ったが変更の可能性はある。 【参考書】特になし。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 試験は行わない。成績評価については、出席、発表内容、ゼミ中の態度、レポート内容から総合的に判断するが、出席を最重要視する。 | | | その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 本ゼミではすべての受講生が卒業時に胸を張って専門的な学習ができたと言えるようなレベルに達することを目指し、そのサポートをする。環境経済学やゲーム理論を究めたいという強い意欲をもつ学生と一緒に学んでいきたい。ゼミ生が将来自分の研究仲間となって、ともに刺激しあうというのが私の夢である。各種企画は受講生の意欲や希望に応じて検討する。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 まずオープンゼミを開催する予定はありません。参加を希望する学生は、オンラインで開催される説明会に出席した後に申込書で以下を明記してください。ゼミ生を選考するにあたって、 成績よりも申込書の内容を重視します 。1. これまでの学生生活 (400 字以上) 2. 環境経済学またはゲーム理論に対する想い (600 字以上) 3. 趣味などについての特記事項, アピールポイント (任意)。やむを得ない理由で説明会に参加できない学生は moodle のゼミ説明会ページで登録のうえ、公開される説明会動画を視聴してください。 説明会に参加しておらず、さらに動画の視聴もしていない学生には原則としてゼミ受講を許可しません 。質問のある方はメールアドレス tfujita@econ.kyushu-u.ac.jp まで連絡をお願いします。 | | | | | |

経済工学演習 (池下 研一郎 ゼミ)

| | | | | | |
|---|---|-------|--|---|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | 動学的最適化 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード* | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | | | キーワード | 変分法・最適制御・動的計画法 | |
| 全体の教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 経済学的な視点から物事を分析的に考察できる。 ▶ プレゼンや対話，論文執筆などを通じて，自らのアイデアを表現できる。 | | 個別の学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 動学的最適化の方法を理解し，説明できる。 ▶ 動学的最適化の方報を経済学の問題に応用できる。 | |
| 授業の概要 最適化は経済学の中で最も重要なツールの1つである一方で，マクロ経済学では時間を通じた最適化問題を考えることが多く，その構造は静学的な問題と異なる。来年度のゼミでは動学的最適化の解法とその経済学的な応用に焦点を当てて実施する。ゼミは3-4年別々実施する。最後に来年度は教員がサバティカルを取得予定であり，通常のゼミ運営とは異なる形で実施する可能性がある。 | | | | | |
| 授業計画 動学的最適化を扱う教科書・資料・論文を読み，問題を実際に解くことにより，手法の理解に努める。その一方で適宜，経済学への応用問題を取り扱う。 | | | | | |
| 授業の進め方 報告者によるプレゼンテーションと参加者によるディスカッション，問題演習を中心に授業を進める。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】A.C.チャン著『動学的最適化の基礎』 | | |
| 試験・成績評価の方法等 ゼミでの報告，議論での参加状況，問題演習への取り組みなどを元に総合的に評価する。 | | | その他 演習参加申込を行い，受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 来年度は教員がサバティカルを取得予定であり，授業の実施や指導が変則的になる可能性があるため，その点を十分に注意してほしい。 ▶ 4年生や大学院生との交流会(飲み会)ぐらいは実施するかもしれない。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 経済学で用いられる数学的手法に関心を持っている学生の参加を希望する(この分野に関心がないと，つらい1年間を送ることになるかもしれない)。 ▶ ゼミ説明会への参加は任意だが，できるだけ参加してほしい。ゼミについて質問がある場合には次のアドレスに連絡してください(ikeshita@econ.kyushu-u.ac.jp)。 ▶ オープンゼミは実施しない。 ▶ 応募者が多数の場合には，志望理由書の熱量を考慮して選抜する。 | | | | | |

経済工学演習 (山崎 大輔 ゼミ)

| | | | | | |
|---|--|-------|---|-------------------------|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | データ分析・機械学習 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード* | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 山崎 大輔 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 学習意欲があること。 ゼミに積極的に参加すること。 | | キーワード | 統計学、計量経済学、機械学習、データサイエンス | |
| 全体の教育目標 | 統計学の手法を理解した上で、実際のデータを用いた分析を行うことができる。 ゼミでの発表を通して、プレゼンテーション能力を養う。 | | 個別の学習目標 | データ分析に興味・関心を持つ。 | |
| 授業の概要 | | | | | |
| <p>本ゼミでは、統計学・データ分析の手法を学び、各自で決めたテーマに関するデータ分析を行います。このゼミでは、計量経済学の手法に加えて、近年のデータサイエンス・機械学習において多く用いられているような、実用的な分析手法についても学んでいきます。さらに、「R」や「Python」を用いた実習と、ゼミ生各自の興味のあるテーマについてのデータ分析を行います。なお、3・4年合同でゼミを行う予定です。</p> | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| <p>前期：統計学・データ分析に関するテキストを読み進めます。 (2024年度はビッグデータ分析や機械学習に関連したテキストを用いる予定です。) これと並行して、コンピュータ・統計ソフトを用いた実習を行います。</p> <p>後期：前期に引き続き、テキストの輪読と、コンピュータ・統計ソフトを用いた実習を行います。 また、ゼミ生各自の興味・関心のあるテーマについてのデータ分析を行います。 さらに、分析結果をゼミで発表して、レポートにまとめます。</p> | | | | | |
| 授業の進め方 | | | 教科書及び参考図書 | | |
| <p>テキストの輪読や、コンピュータ・統計ソフトを用いた実習を行います。また、各自の興味のあるテーマについてのデータ分析を行い、分析結果をゼミで発表します。</p> | | | <p>【教科書】初回のゼミで話し合って決めます。 参考までに、これまでのゼミでは、 星野匡郎・田中久稔・北川梨津 『Rによる実証分析』第2版、オーム社 金森敬文『Pythonで学ぶ統計的機械学習』オーム社 照井伸彦『ビッグデータ統計解析入門』日本評論社 Stock and Watson “Introduction to Econometrics” (和訳：宮尾龍蔵 訳『入門 計量経済学』共立出版) などを用いました。</p> <p>【参考書】適宜紹介します。</p> | | |
| 試験・成績評価の方法等 | | | その他 | | |
| <p>平素の成績（ゼミへの参加状況、ゼミでの報告、レポートなど）に基づいて成績評価を行います。</p> | | | <p>演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。</p> | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 | | | | | |
| <p>ゼミの企画・イベント(懇親会など)については、ゼミ生と話し合っています。</p> | | | | | |

応募に当たっての注意

本ゼミでは、オープンゼミは実施しません。

ミスマッチを防ぐため、本ゼミへの応募を考えている方は、できるだけゼミ説明会に参加してください。

ゼミ説明会の詳細については、2024 年度山崎ゼミ説明会の Moodle コース

<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=54643>

に情報を掲載します。ゼミ説明会への参加を希望する方は、上記 Moodle コースに登録してください。

都合によりゼミ説明会に参加できない場合は、山崎 (yamazaki@econ.kyushu-u.ac.jp) まで連絡ください。

なお、応募者が多い場合は、志望理由と成績に基づいて選抜を行います。

経済工学演習 (瀧本 太郎 ゼミ)

| | | | | | |
|---|--|-------|---|--|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | データサイエンス入門 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 瀧本 太郎 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 事前の準備やゼミでの発言はもちろん、積極的にゼミ活動に参加することに加え、“知的好奇心”と“やる気” | | キーワード | 因果推論, データサイエンス, 会計データ, R, Python | |
| 全体の教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ✓統計的手法に基づく分析 ✓プレゼン能力を養う ✓グループ学習・研究・発表を通じ、広く社会性を養う ✓国際性と英会話力も少し ✓研究を楽しむ | | 個別の学習目標 | 自分でテーマを見つけ、ゼミでの分析を通じて、データサイエンスの専門家としての自信をつけること | |
| 授業の概要 無料で配布されている統計ソフト「R」と「Python」を使って、様々な統計的分析手法とその応用例を学びます。特に、貪欲に知識を吸収し、データサイエンスに関する知識をこれからの人生における強力な武器にしたい人におすすめです。 | | | | | |
| 授業計画 ゼミは3・4年生合同、2コマ連続の予定 1. 前期：『因果推論入門』、『Pythonではじめる会計データサイエンス』 2. 前期最終日もしくは夏季：ゼミ論文（3年生）、卒業論文（4年生）に向けたテーマの設定 3. 後期：前期の残り、ゼミ論文・卒業論文の作成 通年：各週に公表された統計データについての報告 | | | | | |
| 授業の進め方 報告、実習、解説 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 1. Cunningham (2023) 『因果推論入門ミックステープ：基礎から現代的アプローチまで』, 技術評論社 2. 稲垣他 (2023) 『Python ではじめる会計データサイエンス』, 中央経済社 【参考書】 1. 高橋 (2022) 『wonderful R 5 統計的因果推論の理論と実装：潜在的結果変数と欠測データ』, 共立出版 2. ストック・ワトソン (2016) 『入門計量経済学』, 共立出版 3. 西山他 (2019) 『計量経済学』, 有斐閣 4. 蓑谷 (2007) 『計量経済学大全』, 東洋経済新報社 5. Wooldridge (2019) Introductory Econometrics: A Modern Approach, South-Western Pub | | |
| 試験・成績評価の方法等 出席、報告、議論への参加、ゼミ論文（3年生）、卒業論文（4年生） | | | その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |

ゼミの企画、その他特記事項

- ゼミ論文や卒業論文の執筆を通じて、研究を楽しんでもらえたらと思います。もちろん大変なこともありますが、新しい発見に興奮する瞬間を一緒に味わいましょう。
- これまでゼミ合宿や他大学(京都大学, 山形大学, 兵庫県立大学, 国立台湾大学など)とインターゼミナールをしていますが, 2024 年度については皆さんと相談して決めたいと思います。その他, 他ゼミと合同 BBQ やスポーツ大会などもしています。
- モザンビーク共和国, 中国, ソマリア連邦共和国出身の留学生がゼミで学んでいます。また, 今までに 14 名の先輩が交換留学(フィリピン, フランス, イギリス, ドイツ, アメリカ 2 名, 台湾 2 名, シンガポール 2 名, スウェーデン, ベトナム, 中国, オーストラリア)に行っています。
- ゼミでは, GProE 生, マス・フォア・イノベーション連係学府生も学んでいます。
- ポストク 1 名, 博士後期課程の学生が 2 名, 修士課程の学生が 4 名, 当ゼミで学んでいますので, 積極的に院生の先輩と交流してもらえたらと思います。

応募に当たっての注意

- 選抜の際は, 志望理由・成績をもとに総合的に判断します。
- 授業や就職活動等でゼミ説明会をやむを得ず欠席する場合は事前に相談してください。
- Moodle 上で情報提供しますので, 興味がある方は「2024 年度経済工学演習(瀧本 太郎)に関する案内」のコース登録をお願いします。
- ゼミ説明会への参加は任意です。
- 12/4(月)14:50 から E318 でオープンゼミを行う予定です。お気軽に参加ください。

経済工学演習（村尾徹士ゼミ）

| | | | | | |
|---|-----------------------------|-------|---|---|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | Pythonで学ぶ深層強化学習 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 村尾徹士 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 機械学習や人工知能に興味があること。 | | キーワード | 機械学習, AI/人工知能, データサイエンス, ディープラーニング/深層学習, 強化学習, 深層強化学習, Python | |
| 全体の教育目標 | 理論を理解することで手法を適切に使えるようになること。 | | 個別の学習目標 | | |
| 授業概要 <p>深層強化学習は機械学習の中でも「AI（人工知能）」の一般的なイメージに最も近い分野のひとつであり、様々なタスクの自動化を実現します。身近なところでは、イベントやテーマパークの入場チケット価格を需給に応じて変動させるダイナミックプライシングなどに利用されつつあります。最近ではNatureの表紙を飾ったソニーの研究もニュースや新聞で取り上げられました。今後さまざまな応用が期待されている新しい分野です。</p> <p>このゼミは「経済工学科に入学したからには機械学習について学びたい」という方に向いていると思います。機械学習の理論やプログラミングの勉強にはまとまった時間が必要です。「まとまった時間を要することにじっくり取り組めることこそが学生時代の特権である」というのが担当教員の考えです。</p> | | | | | |
| 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> ● 3年次：Pythonの復習→深層学習の教科書である [1] を輪読します。 ● 4年次：強化学習および深層強化学習の教科書である [2] を輪読します。 | | | | | |
| 授業の進め方 ゼミ形式の授業です。 | | | 教科書 [1] 斎藤康毅（著）『ゼロから学ぶ Deep Learning』 [2] 斎藤康毅（著）『ゼロから学ぶ Deep Learning4 強化学習編』 | | |
| 試験・成績評価の方法等 平常点で評価します。 | | | その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生のみ登録可 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 各種企画についてはゼミ生と相談のうえで決定します。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ説明会に関する情報は Moodle コース「村尾ゼミ募集 2024」にて提供します。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ コース URL：https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=54722 ● 応募多数の場合の選抜は志望理由書を基に行います（以下の諸点について記述して下さい）。 <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの大学生活について（特に、興味を持った科目や勉強に力を入れた科目があれば述べてください。いずれも複数可です）。 2. 卒業後の希望進路に関して考えていること。 3. このゼミに興味を持っている理由。 | | | | | |

経済工学演習 (宮崎 毅 ゼミ)

| | | | | | |
|--|--|-------|--|---|----|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | 財政と地方財政 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード* | | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 宮崎 毅 | 授業対象学生及び学年等 | 3年 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 特になし。 | | キーワード | 財政、地方財政、税制 | |
| 全体の教育目標 | 理論と実証の経済分析手法を習得した上で、財政・地方財政・税制に関する問題を経済学的に議論できるようになることが目標です。 | | 個別の学習目標 | ゼミでの報告と議論を通じて、プレゼンや議論の能力を養います。グループ学習により、協調性を涵養するとともに、ゼミ生間での交流も図ります。 | |
| 授業の概要 本演習では、理論と実証における経済学の分析ツールを用い、財政や地方財政、税制に関する問題を経済学の知識に基づいて学習します。特に、経済理論と計量経済分析の知識を応用分析で使えるレベルまで高め、統計ソフトを使って各自で現実の財政や地方財政、税制を分析できるようになることが目標です。そのため、前期に計量経済学と統計分析ソフトRの学習を行い、後期に財政・地方財政・税制を学習します。ミクロ経済学を来年の前期に学習します。 | | | | | |
| 授業計画 ・通常、ゼミは3、4年別、または合同で実施しています 【前期】 第1回 ガイダンスと日程 第2回－第15回 計量経済学とR：星野 匡郎・田中 久稔『Rによる実証分析 一回帰分析から因果分析へ』で計量経済学と統計の基本、Rの使い方を学習します。統計、確率論、相関関係と因果関係、単回帰、重回帰、ランダム化実験、マッチング法、不連続回帰デザイン、操作変数法などを学習する予定です。また教科書に載っているRコードを使って、Rの導入や基本操作、Rによる回帰分析を学習します。 【後期】 (3年生) 第1回－第15回 財政・地方財政・税制：Rosen and Gayer, <i>Public Finance</i> を輪読し、財政や地方財政、税制を経済理論と実証の両面から学習します。 | | | | | |
| 授業の進め方 グループによる報告と討論形式で進めます。報告ではレジュメを用意して担当箇所を発表し、討論者及び全員で討論を行います。 教科書にRコードがある場合には、Rを使った演習も行います。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 星野 匡郎・田中 久稔『Rによる実証分析 一回帰分析から因果分析へ』オーム社。 Rosen and Gayer, <i>Public Finance (9th)</i> , McGraw Hill. 【参考書】 授業中に、適宜指示。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 出席点50%、平素点50% (発表や討論、課題など) | | | その他 演習参加の申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 ・経済学をもう一度しっかり学習したい、Rを使った計量分析を行いたい、経済学に基づいて財政や地方財政を議論できるようになりたいという学生にお勧めのゼミです。 ・飲み会やOB会、ゼミ合宿、スポーツ大会も行いますので、これらの企画には積極的に参加しましょう。例年、ゼミ合宿(九重)を9月に、スポーツ大会を6月(浦川ゼミ、大西ゼミ、瀧本ゼミなど)に行っています。 | | | | | |

応募に当たっての注意

- オープンゼミの日程(オープンゼミは自由参加とします。ただし参加していた方が選抜の際、有利です)
日時:12月15日17時~17時半 場所: E-317 (ゼミの説明:10分、ゼミの見学:20分)。
- 3年生は、3,4年続けて履修することを前提として履修してください。
- ゼミ説明会への参加を強く推奨します。ただし、やむを得ず参加できない学生については、事前にメールで連絡をするようにしてください。
- 授業の成績だけではなく、ゼミでの学習意欲を重視します。特に、財政や地方財政への強い問題意識を持っている学生を望みます。大学院、国家公務員や地方公務員志望の学生も、大歓迎です。応募者が比較的多い場合は、志望理由や成績によって選抜を行います。
- 3年或いは4年次に財政を履修することになります。
- 来年の前期にミクロ経済学を学習します。奥野正寛編『ミクロ経済学』で、消費者行動、生産者行動、市場均衡、ゲーム理論、不完全競争、外部性と公共財を学習する予定です。
- 4年生は、各自で卒業論文を執筆します。
- 連絡先: tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp

演習参加申込書の提出方法(※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。)

- | | | | |
|-------|------------------------------|--|--------------------------------|
| 第1次募集 | <input type="checkbox"/> 手書き | <input checked="" type="checkbox"/> Wordファイル | <input type="checkbox"/> いずれも可 |
| 第2次募集 | <input type="checkbox"/> 手書き | <input checked="" type="checkbox"/> Wordファイル | <input type="checkbox"/> いずれも可 |

経済工学演習

(三輪 宏太郎 ゼミ)

| | | | | | |
|--|------------------------------------|-------|--|------------------------------------|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | 証券投資と投資家心理 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード* | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 三輪 宏太郎 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 特になし（金融関連の講義の受講歴があれば、なお良し） | | キーワード | 投資家心理、株価形成 | |
| 全体の教育目標 | 金融の諸問題を、独自に調査し、実務に耐えうる分析調査能力を身につける | | 個別の学習目標 | 心理が、投資行動や資産価格形成にどのように影響を及ぼすか理解を深める | |
| 授業の概要 3年、4年別々にゼミを行います（3年行動ファイナンス、4年株式投資論）。 3年前半部は、テキストを論読し、行動ファイナンスに関する知識を深めることに重点を置きます 後半部は、①教員が提示するケースに関する調査・分析②各人が独自で調査したケースについて発表&議論し、人間の心理がいかに関与し投資行動・価格形成に影響を与えるのか理解を深めていただきます。 ※4年では、株式分析の実務的側面を学び、実際に株式投資戦略を策定し、評価分析をします。 | | | | | |
| 授業計画 （前期） 第1回 ガイダンス；ゼミの進め方と輪読・課題内容について 第2回以降 輪読発表 （後期） 調査・課題発表など ※適宜、金融に関するケーススタディの回、金融業界の実務家による特別レクチャーなどの場を設けます | | | | | |
| 授業の進め方 基本的に、担当者の発表→質疑応答→教員の解説→課題の議論で進めます。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 Ackert, Lucy, Deaves, Richard : Behavioral Finance: Psychology, Decision-Making, and Markets | | |
| 試験・成績評価の方法等 発表50% 出席20% 議論への参加度30% | | | その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 ※担当教員は、実務家出身のため、実務的側面を重視した内容となります。 ※就職活動が前倒しになっている昨今の状況を鑑み、企画に関しては基本的に参加ゼミ生の自主性に任せます。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 ※説明会参加は必須ではありませんが、参加を強く推奨します。 ※説明会参加の場合、Moodle コース“三輪宏太郎ゼミ 2024年度説明会”に登録してください。 ※志望理由は、今後、ゼミで学ぶ予定の内容をどのように生かしていきたいかを中心に書いてください | | | | | |

経済工学演習

(浦川 邦夫 ゼミ)

| | | | | | |
|---|---|-------|---|--|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | 教育の経済学 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 特になし。 | | キーワード | 教育、社会保障、格差 | |
| 全体の教育目標 | 日本や他の諸外国の歴史・制度・文化に対する理解を深め、現行の教育制度・社会保障制度に対する問題意識を培う。 | | 個別の学習目標 | ゼミ生同士で互いに交流し、討論、データ分析、資料作成、発表等の一連のプロセスを通じて能動的な学習能力を培う。 | |
| 授業の概要 令和6年度の演習では、日本や諸外国の教育制度や教育支援政策に注目し、教育が、雇用・賃金、経済成長、格差、ウェルビーイングなどの様々なファクターにどのような影響を与えているかについて、応用計量分析の手法を学びながら考察します。後期は、インゼミでの報告など、他大学の学生とのアカデミックな交流を通じて、自分の視野や可能性を大いに広げてもらいたいと考えています。 | | | | | |
| 授業計画 春学期…北條雅一 (2023)『少人数学級の経済学—エビデンスに基づく教育政策へのビジョン』(慶應義塾大学出版会)などの書籍をベースとして、初等中等教育の制度設計が、学生の教育アウトカム(成績・非認知能力)やその後の進学行動に与える影響を分析した研究について学びます。 秋学期…学校での学びの経験や教育政策が、卒業後の働き方や生活時間に与える影響に注目し、関連研究の輪読・討論を行います。論文報告会やインゼミに参加し、他大学の学生との交流機会を持ちます。 | | | | | |
| 授業の進め方 主に報告・討論のゼミ形式で行う。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 北條雅一 (2023)『少人数学級の経済学—エビデンスに基づく教育政策へのビジョン』 慶應義塾大学出版会 【参考書】 J.S.ミル (2011)『大学教育について』岩波文庫 中室牧子 (2015)『学力の経済学』Discover 21 | | |
| 試験・成績評価の方法等 平素の発表、討論、提出課題の内容等をもとに総合的に評価する。 | | | その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 BBQ やスポーツ大会などの学内交流に加え、他大学とのインゼミ(神戸大学、慶應義塾大学などを予定)、ゼミ旅行(医療・福祉施設の見学を含む)を通じて学際的な交流を行う。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 履修希望者は、ゼミ説明会(一覧表は別途掲示)に参加するようにしてください。 ゼミに関するより詳細な質問は、メールで随時受け付けます。 urakawa@econ.kyushu-u.ac.jp | | | | | |

経済工学演習 (教員名 葉 ゼミ)

| | | | | | |
|--|--|-------|-------------------------------|---|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | 企業分析と研究 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 葉 聰明 (Tsung-ming Yeh) | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | とくになし | | キーワード | 企業価値、M&A、企業統治 | |
| 全体の教育目標 | M&Aなどの企業戦略を経済学的に分析し、企業価値への影響について評価する専門知識を身につけること | | 個別の学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ● 自主的学習の習慣 ● プレゼンのスキル ● コミュニケーション能力 | |
| 授業の概要 | | | | | |
| 3年生の場合 2024年度では、教員の研究分野であるM&A(企業合併買収)や企業統治を中心に、代表的な教科書を使い、輪読の形で勉強していきます。最近では、テスラ社のイーロンマスク氏がTWITTER社を買収(TOB)しようとしたり、買収金額を変更させようとしたりといった事例からわかるように、日本でも企業戦略として一般的に活用されています。また、ESG(Environment, Social, Governance)経営が世界的に重視されている中、企業統治(Governance)も企業価値を高めるうえで重要な役割を占めています。教科書の輪読を通じて、M&Aや企業統治についての仕組みや論点を勉強したうえで、それらがどのように企業の価値・業績・株価に関連しているのか実例分析(ケーススタディ)を行います。 | | | | | |
| 4年生の場合(自由選択, 希望者のみ) M&Aや企業統治、さらにその周辺分野のトピックを受講者(グループ)が選定し、研究プロジェクトを進めていきます。研究プロジェクトの実施に当たって、教員は「文献レビュー」、「研究方法」、「データの収集」、「統計ソフト」、「レポートの書き方」などについて手ほどきをします。 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 3年生の場合 使用する教科書の内容に従って輪読しながら実例分析(ケーススタディ)を行います。 4年生の場合(自由選択, 希望者のみ) 前期では教員は研究の手ほどきを説明しながら、受講者は各自の問題意識を持って研究のトピックを模索しながら決定します。前期の後半から受講者(グループ)が研究プロジェクトをスタートさせ、後期の終了までに研究を完成させ、レポートをまとめます。 | | | | | |
| 授業の進め方 | | | 教科書及び参考図書 | | |
| 3年生の場合、教科書を輪読する形式でメンバーが分担して報告、討議を行う。4年生の場合、受講者(グループ)が研究プロジェクトを実施し、定期的に進捗報告をする。 | | | 3年生ゼミでは教科書(洋書)を指定する。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 | | | その他 | | |
| ゼミへの参加や成果物で全体的に判断する | | | 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| その他特記事項 とくになし | | | | | |
| 応募に当たっての注意 | | | | | |
| ゼミ説明会:参加必須。ゼミ選抜基準:履修状況や成績など総合的に判断。 オープンゼミ実施:なし。授業との重複や就職活動などでやむを得ず参加できない場合、別途面談。 | | | | | |
| 演習参加申込書の提出方法(※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。) | | | | | |
| 第1次募集 □手書き ■Wordファイル □いずれも可 第2次募集 □手書き ■Wordファイル □いずれも可 | | | | | |

経済工学演習（堀 宣昭 ゼミ）

| | | | | | |
|--|---|-------|---|-------------------|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | 応用経済理論（マクロ経済理論） | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 堀 宣昭 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 経済学入門、【基本】ミクロ経済学 I, II、マクロ経済学 I, IIの単位修得。 | | キーワード | ミクロ経済学・マクロ経済学 | |
| 全体の教育目標 | 自分のアイデアを論理的・効果的に表現する能力を涵養する。 | | 個別の学習目標 | 経済学の理論体系の全体像をつかむ。 | |
| <p>授業の概要 <u>本演習では、徹底的な問題演習を通じて中級から上級にかけての幅広いミクロ経済学・マクロ経済学の理論と様々な分野へのその応用を学び、経済学の理論体系の全体像をつかむことを目指す。</u>ゼミは3・4年合同で行う。</p> <p>令和6年度は、まず、教科書に沿って学部上級向けの<u>マクロ経済学</u>の問題演習を行う。さらに、参考図書では、マクロ経済理論が現代日本のマクロ経済政策の理解にどのように結びつくのかを学んでいく。</p> <p>令和7年度以降のテーマの候補は、応用ゲーム理論、国際経済学などである。</p> | | | | | |
| 授業計画 【前期】教科書の問題演習 | | | 【後期】参考図書の輪読。 | | |
| 授業の進め方 【問題演習】 学生は毎回、教科書の演習問題を解答して提出し、授業では、順次担当の問題の解答を報告する。必要に応じて講義を行う。 【参考図書の輪読】 順次、参考図書の担当部分の概要を報告する。 | | | 教科書及び参考図書（予定） 【教科書】 『ブランシャール・マクロ経済学（上・下）』東洋経済新報社, 2020. 【参考図書】 オリヴィエ・ブランシャール『21世紀の財政政策』日本経済新聞出版, 2023. | | |
| 試験・成績評価の方法等 報告の内容及び平素の学習態度（出席も含む）。 | | | その他 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 本ゼミが理想とする学生は、社会経済現象の背後に具体的にどのようなメカニズムで動いているのか、深く考えることが好きな学生です。また、大学院への進学を考える学生の応募も歓迎します。 経済学では、センスのある問題意識を絶えず鍛え続けていくことが重要です。そのためには、歴史や政治など、さまざまな公共問題への関心を深めることが肝要ですので、通常のゼミ以外にも、よりカジュアルな日本語文献（新書など）を集中的に講読するための輪読会（合宿?）を予定します。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ■ オープンゼミは実施しません。 ■ 応募に当たってゼミ説明会への参加は必須ではありませんが、本演習の意図、目指すところや4年生の自主研究などについて説明します。ミスマッチを防ぐためにもできるだけ参加しておいてください。説明会は一応録画します。 ■ 応募者多数の場合は面接をすることがあります。 | | | | | |

経済工学演習 (室賀貴穂ゼミ)

| | | | | | |
|--|--|-------|---|--|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | データサイエンスを通じて働くことを考える | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード* | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 室賀貴穂 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | ミクロ経済学・統計学・計量経済学の基礎を理解していることが望ましい。 | | キーワード | 労働経済学、ミクロ実証分析 | |
| 全体の教育目標 | 労働経済学やミクロ実証分析に関するトピックについて、グループ学習・プレゼンテーションを行う。 | | 個別の学習目標 | ゼミでの活動を通じた能動的学習。グループディスカッション・プレゼンテーション能力の向上。 | |
| 授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ● 教科書を輪読し、労働経済学で使用されている実証分析手法について理解を深める。 ● 労働参加・高齢化・教育・結婚等、労働経済学に関わる諸問題について理解を深める。 ● 受講人数によって変更の可能性はありますが、3-4年の合同でゼミを行う予定です。 | | | | | |
| 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> ● 教科書を輪読する。 ● グループごとにテーマを決め、データ収集・実証分析・プレゼンテーションを行う。 | | | | | |
| 授業の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ● 報告・討論 ● グループワーク ● R や Stata を用いた実習 | | | 教科書及び参考図書 <p>【教科書】初回ゼミ時に話し合いますが、下記の教科書を予定しています。 川口大司.(2017). 労働経済学—理論と実証をつなぐ. 有斐閣</p> <p>【参考書】 中室牧子, & 津川友介. (2017). 「原因と結果」の経済学: データから真実を見抜く思考法. ダイヤモンド社.</p> | | |
| 試験・成績評価の方法等 平常点をもとに成績評価を行います。 | | | その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 ゼミ生と話し合いの上、ゼミの企画を決めていきたいと思ひます。 令和5年度にはゼミ対抗ソフトボール大会への出場・ゼミ生全員でのレクリエーションを行っています。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 <ul style="list-style-type: none"> ● YouTube チャンネルにゼミの活動に関する動画をアップしておりますので、動画をご視聴頂くと、ゼミの雰囲気はわかりやすいかと思ひます。Instagram のアカウントもありますので、チェックされることをお勧めいたします。 ● ゼミ説明会では、質問を重点的に受け付けますので、応募を検討される方は説明会にご参加ください | | | | | |

い。

- 受講者の選抜では、成績だけでなくサークル・部活・アルバイト・資格取得・趣味等の大学での学業以外の活動についても重視しますので、申込書には、志望理由と共に、あなたがこれまでに一生懸命取り組んでいらしかったことについても記述してください。

<参考>

- YouTube チャンネル: <https://youtube.com/@kihomuroga>
- Instagram: https://www.instagram.com/muroga_seminar/



経済工学演習 (菅 史彦ゼミ)

| | | | | | |
|--|--|-------|---------|--|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | 実践・データ分析 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 菅 史彦 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 統計学・計量経済学の基礎を理解していることが望ましいが、並行履修でも構いません。 | | キーワード | マイクロデータ分析、計量経済学、労働経済学 | |
| 全体の教育目標 | データから何がわかって何がわからないのかを知ること。 自分の考えの正しさ・確からしさを示すために、自分でデータを分析できるようになること。 自分の考えを人に伝えるための技術を磨くこと。 | | 個別の学習目標 | 3年生の目標は、統計学・計量経済学の有用性と限界を理解し、統計ソフトRを使いこなせるようになること。 4年生は、各自でテーマと分析したいデータを見つけ、統計ソフトを使って自力でデータ分析ができるようになること。 | |
| 授業の概要 | | | | | |
| <p>ICT技術の発展により、データ分析の技術や知識が活きる場面が増えています。自分や他人の主張・アイデアが正しいこと、あるいは間違っていることを示したいときに、データ分析は強力なツールになります。また、世の中にはデータを使った嘘やごまかしが溢れており、そういったものに惑わされないためにも、データ分析に関する基本的な知識は役に立ちます。</p> <p>データ分析にも様々なトピックがありますが、菅ゼミでは因果推論をメインテーマに据えています。因果推論とは、データから変数間の因果関係（原因・結果の関係）を見出す手法のことです。一般に、相関関係（二つの変数が連動していること）は、必ずしも因果関係を意味するとは限らず、見せかけの相関や逆の因果に多くの人々が騙されがちです。因果推論を学ぶことで、どのような情報や変数があれば、変数間の因果関係を証明することができるのかを知ることができます。また、それを知ることで、世の中で一般的に用いられている統計分析の問題点やごまかしに気づくことも可能になります。</p> <p>本演習では、データ分析（統計学・計量経済学）、特に因果推論に関する基本的な知識を身につけてもらうとともに、実際に統計ソフトを使ってみることで、データ分析の技術を習得してもらうことを目的としています。それにより、データを使って何が出来て、何が出来ないのかを知り、皆さんがデータ分析を将来の仕事や日々の暮らしに役立てることができるようになることを目指します。ゼミは基本的には3、4年生合同で、大学院生にもたまに参加してもらう予定です。</p> | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 【前期】 | | | | | |
| <p>3年生は、教科書の輪読（発表&議論）、東京大学社会科学研究所データアーカイブのデータ紹介、およびデータ分析に関する本の発表を平行して行います。教科書の発表では、統計ソフトRを使い、教科書の例の再現と演習問題の解説をしてもらいます。</p> <p>4年生は、各自関心のあるテーマに沿って東京大学社会科学研究所データアーカイブでデータを見つけ、前期の終わりにデータの概要や関心のある変数の分布や基本統計量について発表してもらいます。発表のタイミングについては、就職活動の進捗状況を考慮し、可能な限り柔軟に決めることとします。</p> | | | | | |
| 【後期】 | | | | | |
| <p>3年生は、教科書の輪読の代わりに東京大学社会科学研究所データアーカイブのデータを使い、実際にデータを使った実証分析をしてもらいます。データ紹介と本の発表は後期も続きます。</p> <p>4年生は、後期の最初に分析の背景や先行研究について発表してもらいます。その後、前期に選んだデータを使い、回帰分析等の手法を駆使して分析し、分析結果について冬休み前に簡単に発表してもらい、学期末に分析を修正し全てまとめたものを発表してもらいます。分析結果はデータ利用報告書としてまとめてもらいます（全員）が、希望者については卒業論文にまとめてもらいます（希望者のみ）。</p> | | | | | |

前期後期通して、発表内容に関して私が発表者や（学年問わず）全ての参加者に質問するとともに、適宜グループディスカッションも行います。

授業の進め方

一人20～30分程度で、毎回3～4人に順番に発表してもらいます。基本的にはスライドを使って発表し、内容について全員で議論します。また、前期は教科書に練習問題があるので、解き方をランダムに当てた一人に解説してもらいます。

データ分析は無料統計ソフト”R”を使って実習を行う。前期にRの使い方、後期はデータの使い方に関するチュートリアルセッションを行い、3年生のうちに回帰分析まで一通りできるようになることを目指します。

必要に応じて毎回私から質問をし、発表者に答えてもらったり、グループディスカッションを行ったりする予定です。

教科書及び参考図書

【教科書】

星野匡郎&田中久稔（2023）『Rによる実証分析－回帰分析から因果分析へ－』第二版 オーム社

【参考書】

伊藤公一朗（2017）『データ分析のカー因果関係に迫る思考法』

西山 慶彦、新谷 元嗣、川口 大司、奥井 亮（2019）『計量経済学(New Liberal Arts Selection)』有斐閣

試験・成績評価の方法等

発表（50%）、出席&授業態度(30%)、宿題(20%)。授業態度は積極性を重視します。

その他

演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できることとします。四年次から受講する学生は、三年生と同じ扱い（同じ発表内容）とします。

ゼミの企画、その他特記事項

- 四年生が提出するデータ利用報告書は、四年次にスライドを使って発表したものを文章にしてまとめ、必要に応じて加筆修正したものを想定しています。
 - 卒業論文は、上記のデータ利用報告書にさらに加筆修正を行い、きちんと論文としての体裁を整えたものを想定しています
 - 卒業論文の執筆については、希望者のみ指導します。ただし、大学院進学希望者や、(留学などの際に)将来的に推薦状が必要となる可能性があると思う学生は、可能な限り執筆することとします。
- ゼミ合宿やインターゼミ等の企画はまだありませんが、希望者がいれば積極的に開催します。

応募に当たっての注意

- ゼミ説明会はハイフレックスで行います。Moodle に説明会用のページ(『2023 年度通年・経済工学演習説明会(菅 史彦)』)を設置し、そこに Zoom のリンクを貼り付けます。
- ゼミ説明会には可能な限り参加してください。参加できない場合は、Moodle 上にアップされた資料を参照し、質問がある場合はメール(f.suga“at”econ.kyushu-u.ac.jp)に連絡してください。

応募数が上限を超えた場合には、統計学・計量経済学への理解度、関心のあるテーマとGPAに基づいて書類選考を行います。そのため、演習参加申込書には、

- ① 統計学や計量経済学に関係する講義をこれまでに受講したことがあるか、
- ② (受講したことがあれば)その時の成績、
- ③ 興味・関心のあるテーマ(統計学や計量経済学でなくても構わない)、
- ④ GPA

を明記してください。

経済工学演習 (北原 知就 ゼミ)

| | | | | | |
|--|--|-------|--|--|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | 経済学と数理最適化 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 「微分積分学・同演習AB」、 「線形代数・同演習AB」の単位を修得していることが望ましいです。 | | キーワード | 数理最適化、オペレーションズ・リサーチ | |
| 全体の教育目標 | 数理的能力、コミュニケーション能力、英語力、プログラミング能力を総合的に伸ばすことを目標とします。 | | 個別の学習目標 | 1. 専門文献を理解できる。 2. 自分が理解したことを他人に自分の言葉でわかりやすく説明できる。 3. 自ら課題を見つけて勉強や研究を進められる。 | |
| 授業の概要 数理最適化とは、現実の意思決定問題を数学的にモデル化し、得られたモデルをアルゴリズムを用いて解くことによって、効率的な意思決定を目指す方法論です。数理最適化は経済学でも頻繁に用いられています。この授業では、3年次に経済学や数理最適化に関連する教科書や論文を精読し、論理的思考力、専門文献を読みこなす能力を鍛えます。4年次には身の回りの課題を見つけ、経済学や数理最適化を用いて解決することを目指します。さらに、データ解析のコンペに参加するなどして、他と協働する力やプログラミング能力を伸ばすことを目指します。本授業は3年生と4年生別々に行う予定です。 | | | | | |
| 授業計画 本授業は、3年次に経済学や数理最適化に関する教科書や論文を精読し、論理的思考力や専門文献を読みこなす能力を鍛えます。4年次には身の回りの課題を見つけ、経済学や数理最適化を用いて解決することを目指します。また、有志の取り組みとして、ここ4年間データ解析のコンペティションに参加しています。 | | | | | |
| 授業の進め方 3年次：日本語または英語で書かれた専門文献を精読します。 4年次：身の回りに問題を発見し、経済学や数理最適化を駆使して解決することを目指し、結果を論文にまとめます。 任意：データ解析のコンペに参加します。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 適宜指定します。 【参考書】 適宜指定します。 | | |
| 試験・成績評価の方法等 授業参加の様子などから総合的に評価します。 | | | その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できます。 | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 1. 学生の皆さんの意見を皆さんとよいゼミを目指していきたいと思っています。 2. 皆さんのよい部分を見つけ、伸ばしていけるようなゼミでありたいと思っています。 3. データ解析コンペへの参加など、実践的な学びの機会を設けます。 4. ゼミの企画は学生の皆さんの自主性にお任せします。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 1. ゼミ説明会はオンラインで行います。説明会の URL やゼミの資料は、Moodle の下記のページに掲載します。説明会に参加を希望される方は、コース登録をお願いします。 https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=51796 | | | | | |

2. オープンゼミは実施しませんが、ゼミへの参加を希望される場合は、お気軽に担当教員までご連絡ください。
3. ゼミを選ぶ際は、ミスマッチを避けるため、一度は教員と話をしておいたほうが良いと思います。そのため、当ゼミを希望される方は、できるだけ説明会へ出席してください。用事等で出席が難しい場合は、個別対応もできますのでご連絡ください。
4. 選考にあたっては、志望理由を重視します。また、面接を実施することがあります。
5. ゼミについてわからないことがありましたら、お気軽に下記アドレスにご連絡ください。
アドレス:tomonari.kitahara'at'econ.kyushu-u.ac.jp ('at'を@で置き換えてください)

経済工学演習 (大西俊郎ゼミ)

| | | | | | |
|--|---|-------|--|--|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | Bayes統計学入門 | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 大西俊郎 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数Ⅰ・Ⅱおよび数理統計学Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること. | | キーワード | Bayes統計学，頻度主義の統計学，機械学習，Python，R（統計ソフトウェア） | |
| 全体の教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 統計学の理解の深化 ✓ プレゼンテーション能力の向上 | | 個別の学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ Bayes統計学および頻度主義の統計学の理解 ✓ プログラミング言語の習得 | |
| 授業の概要 近年注目を集めているBayes統計学を学ぶ。 統計学は科学の文法と言われることがあり，自然科学・人文科学・社会科学の幅広い学問分野で実証分析・データに基づいた意思決定に用いられている。Bayes統計学の特長は，事前情報とデータを統合することによって合理的な推測を可能にする点にあり，未知パラメータの個数が多い場合にパフォーマンスがよいことが知られている。 ビッグデータ では多数の未知パラメータを含む統計モデルが用いられるため，Bayes統計学は今後その重要性がますます高まると予想される。 2年次の数理統計学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容は，Bayes統計学と対比して 頻度主義の統計学 と呼ばれる。この授業では，定評のある 機械学習 の教科書の輪読を通じてBayes統計学の考え方を修得することを目標とする。教科書を分担して輪読するセミナー形式で学ぶ。演習は 3・4年別に行う（3年生は4時限，4年生は5時限） 。意欲的な3年生は4年生のクラスにも参加可能とする。 | | | | | |
| 授業計画 1. 3・4年次の全60回（90分×15回×4個学期＝90時間）の授業で「 パターン認識と機械学習（上） 」を読むことを目標とする (1) 教科書は，Bayes統計学の視点から 機械学習 と パターン認識 の様々な理論や手法を解説している。特に，上巻は（下巻を読むための準備として）基礎的内容に重点が置かれている。 第1章：序論，第2章：確率分布，第3章：線形回帰モデル，第4章：線形識別モデル，第5章：ニューラルネットワーク (2) Bayes統計学の考え方を学ぶ。 (3) 頻度主義の統計学を復習するとともに，数理統計学Ⅰ・Ⅱでは取り扱わなかった 最尤推定 や 十分統計量 などの概念を学ぶ。 | | | | | |
| 2. 必要な数学知識を補強する 上記の教科書の付録，または，1年次に使用した微分積分学と線形代数学の教科書を利用して， 変分法 などの必要な数学知識を補強する。 | | | | | |
| 3. プログラミング言語の習得 Python または 統計ソフトウェアR の初歩的な部分を学び，グラフィック機能を使うことにより教科書の内容を視覚的に理解する。PythonまたはRの利用を通してプログラミングを学ぶことができる。 | | | | | |
| 授業の進め方 セミナー形式で行う。 | | | 教科書及び参考図書 【教科書】 「パターン認識と機械学習（上）」 C. M. ビショップ，丸善出版 【参考書】 数理統計学Ⅰ・Ⅱ，微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱの教科書 | | |

| | |
|---|---|
| 試験・成績評価の方法等 演習での発表・質疑応答を総合的に評価する。 | その他 演習参加申込を行い，受講を認められた学生だけが登録できる。 |
|---|---|

| |
|--|
| ゼミの企画、その他特記事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の理論を体系的に修得すること，および，Python や R によるプログラミングを学べることが本ゼミの特色である。 2. ゼミ論文の代わりに統計検定 2 級（または準 1 級）の合格を課す。2 級は大学基礎科目レベル。検定試験については http://www.toukei-kentei.jp/ を参照。 3. 要望に応じて自主的な勉強会を行うことも可能。経済学部のカリキュラムにない数学（複素関数，ルベーグ積分）の本の輪読，アクチュアリー試験対策を実施したことがある。 |
|--|

| |
|---|
| 応募に当たっての注意 <ol style="list-style-type: none"> 1. オープンゼミは行わないが，随時相談を受け付ける。 2. ゼミ説明会は参加必須とする。やむを得ず欠席する場合は事前にメールすること。 3. 申込書には GPA とともに微分積分学 I・II，線形代数学 I・II，数理統計学 I・II の成績を記入すること。もし応募多数となった場合は，これら科目の成績を重視して選考を行う。 |
|---|

経済工学演習 (伊豆永 洋一ゼミ)

| | | | | | |
|---|--|-------|---|--|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | モデリングとアルゴリズム | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | — | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 伊豆永 洋一 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 微分積分学Ⅰ・Ⅱ, 線形代数学Ⅰ・Ⅱを履修済みであること. | | キーワード | 数理最適化, アルゴリズム, 機械学習 | |
| 全体の教育目標 | 数学という共通の言語を用いた論理的な思考法や, 明快に表現する能力を身につける. | | 個別の学習目標 | 数理最適化や機械学習におけるアルゴリズムを理解し, それらを適切に活用する. | |
| 授業の概要 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 近年, 機械学習に代表されるように大量の情報を収集・認識する技術が目覚ましい発展を遂げている. そのような収集・認識された情報から意思決定を行うための技術の一つに数理最適化(数理計画法)がある. 本ゼミでは, これらの技術の背後にあるモデリング手法やアルゴリズムを理解することを目標とする. また, プログラミング言語によるアルゴリズム実装やそれを用いた応用分析も行う. | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学的準備(集合論, 線形代数, 微積分, 確率統計) 2. 最適化モデルとアルゴリズム 3. Pythonを用いた演習 | | | | | |
| 授業の進め方 | | | 教科書及び参考図書 | | |
| 輪講形式で進行し, 各回の担当者が資料を作成し内容を説明する. モデリングやプログラミングに関する演習も実施予定. | | | 【教科書】 <ul style="list-style-type: none"> 『経営工学の数理Ⅱ』宮川雅巳他, 朝倉書店. 『Pythonではじめる数理最適化』岩永二郎他, オーム社. 【参考書】 <ul style="list-style-type: none"> 『しっかり学ぶ数理最適化』, 梅谷俊治, 講談社. 『新版・数理計画入門』 福島雅夫, 朝倉書店. | | |
| 試験・成績評価の方法等 | | | その他 | | |
| ゼミでの発表・質疑応答および演習への取り組み等を総合的に評価する. | | | 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる. | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ゼミで取り扱う内容は, みなさんの興味に応じて柔軟に対応します. 参考までに過去に学生(他大学)が扱ったテーマの一例を挙げておきます. https://bit.ly/39G9H0w ゼミの企画は, 学生の皆さんの自主性にお任せします. | | | | | |

応募に当たっての注意

- ゼミ説明会は対面で行います。オープンゼミも実施予定です。
- 説明会やオープンゼミに関する情報はMoodleを通じて提供するので、参加を希望される方は以下のコースに登録してください。
「2024年度 経済工学演習に関する案内（伊豆永 洋一）」
- 本ゼミを希望される方は、可能な限り説明会に参加してください。参加が難しい場合は、個別あるいはオンデマンド等にて対応しますので、メールにてご連絡ください。
- 演習参加申込書には、必ず下記の内容を記入してください。
 - (1) 志望理由
 - (2) 数学あるいは情報科学に対する興味関心
- 申込後に、Zoomなどで面談を実施する予定です。

ゼミに関して質問があれば、お気軽にメールにてご連絡ください。

E-mail: izunaga<at>econ.kyushu-u.ac.jp （<at> を @ に置換）

経済工学演習 (小室 理恵 ゼミ)

| | | | | | |
|---|--------------------------|-------|--|--|-------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | 多目的進化的アルゴリズム | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード | | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 小室理恵 | 授業対象学生及び学年等 | 3年次以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 特記事項参照 | | キーワード | 進化的アルゴリズム, 多目的最適化 | |
| 全体の教育目標 | 進化的アルゴリズムによる解の探索方法を理解する. | | 個別の学習目標 | 既存のコードを用いてシミュレーションを行い, 発展的に学習する能力を身に着ける. | |
| 授業の概要 多目的最適化問題では, 複数の関数を最適 (最小あるいは最大) にする解を見つけることを目的としている. しかし一般的には, 2つ以上の関数を同時に最適化することは不可能である. 一方, 進化的アルゴリズム (EA) は, 現世代の個体群に交叉や突然変異といった操作を行うことにより, 次世代の個体群を生成するという生物の進化過程を模して作られた最適解の探索方法である. 多目的最適化問題ではどのような解を最適と考えるのか, そして, EAによる解の探索をどのように行うのかを学習する. 2年目以降の受講者 (4年生) とは別に行う. | | | | | |
| 授業計画 前期: 教科書を読んで知識を得た後, 既存のコードを用いていくつかの問題の解探索を行う. 例 ナップサック問題 (n個のバッグそれぞれにm個の品物を詰め, それぞれのバッグに詰められた品物の総価値を最大にする問題. それぞれの品物には v_1, v_2, \dots, v_m という価値があり, それぞれのバッグには最大容量 w_1, w_2, \dots, w_n が決められている.) 後期: 得られた結果の分析を行い, より良い探索方法について考える. | | | | | |
| 授業の進め方 輪講形式で教科書を読み進め, 適宜演習を行う. | | | 教科書及び参考図書 未定 | | |
| 試験・成績評価の方法等 原則として出席 (参加) 必須である. 成績は, 授業の参加状況, 発表等で総合的に評価する. | | | その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる. | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 プログラミングが得意である必要はないが, 既存のコードを眺めること, それを用いてシミュレーションを行うことに拒否感がないことを前提とする. 生物学の知識は一切不要である. | | | | | |
| 応募に当たっての注意 ゼミ説明会: 対面とオンラインどちらでも参加可能のハイフレックス形式で行う. ミスマッチを避けるため, 履修希望者は参加することが望ましい. 参加できなかった場合は応募前に必ずメールで連絡する. Moodle のコースページ「2024 年度経済工学演習説明会 (小室ゼミ)」に情報を掲載するので, 説明会参加予定者は, 参加方法に関わらず必ず事前にコース登録しておく. https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=54728 経済HP内の「ゼミナール関連情報」にも情報を掲載予定である. 申込書: 志望理由を重視する. また, こちらから連絡することもあり得るので, 定期的にチェックしているメールアドレスを明記する. メールでの質問は随時受け付ける (rie.komuro'at'econ.kyushu-u.ac.jp 'at'を@に変更する). | | | | | |

経済工学演習 (松本 浩一 ゼミ)

| | | | | | |
|--|--------------------------|---|----------|---------------------|------|
| 授業科目名 | 経済工学演習 | | 講義題目 | 金融工学・数理ファイナンス | |
| 授業科目区分 | 選択必修科目 | | 授業科目コード* | | |
| 授業方法及び開講学期等 | 通常講義 通年 | 担当教員名 | 松本 浩一 | 授業対象学生及び学年等 | 3年以上 |
| 単位数 | 4単位 | | | | |
| 履修条件 | 線形代数, 微分積分, 基礎的な確率・統計の知識 | | キーワード | 金融工学, 数理ファイナンス | |
| 全体の教育目標 | 金融工学の専門知識の習得 | | 個別の学習目標 | Black Scholes 価格の理解 | |
| 授業の概要 金融工学は金融機関における投資, リスク管理, 商品開発などのために発展してきた学問である。最近では, 天候, 地震, 不動産, 企業経営に伴う事業リスク等も研究対象としており, 応用分野は多岐にわたる。今や金融工学は金融機関のみならず, 一般企業にとっても有用な学問である。 本講義は, 金融工学の専門知識を生かした職務を志望する学生, あるいは研究者を目指す学生を対象としたゼミである。ゼミでは特に数理的専門能力の育成に重点を置く。 | | | | | |
| 授業計画 講義では, 金融工学に関する教科書を分担して精読する。金融工学の専門的知識を深めつつ, 金融市場に関する知識もバランスよく身に付けていくことが重要である。教科書は受講予定者の希望を踏まえて決定する。 | | | | | |
| 授業の進め方 教科書を分担して担当者が説明し, 質疑応答を行うセミナー形式で行う。 | | 教科書及び参考図書 Steven E. Shreve, <i>Stochastic Calculus for Finance I: The Binomial Asset Pricing Model</i> , Springer Verlag, 2003 ジョン ハル, 東京三菱銀行金融商品開発部(翻訳)『フィナンシャルエンジニアリング—デリバティブ取引とリスク管理の総体系』金融財政事情研究会, 2016年 | | | |
| 試験・成績評価の方法等 平素の授業での発表, 質疑応答を総合的に評価する。 | | その他 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。 | | | |
| ゼミの企画、その他特記事項 文理双方の能力を必要とする。数学, 経済, 計算機すべてに意欲的に取り組める好奇心旺盛な学生が望ましい。 | | | | | |
| 応募に当たっての注意 本ゼミへの参加を希望する学生は説明会に参加し, 定められた日時までに以下の手続きを行うこと。 1. <u>ゼミ説明会は Zoom にて行う予定である。</u> ゼミ説明会の参加希望者には, Zoom の URL を連絡するので, 説明会前日の正午までに下記の講義の Moodle へ登録を行い, Moodle の指示に従うこと。 2023 年度通年・木 4・経済工学演習①(松本 浩一) 説明会で相談時間を設けるが, 説明会に参加できず, 個別相談を希望する場合はメールすること。 | | | | | |

2. 演習参加申込書 (Word) に下記の内容をすべて記述し、事務に提出すること。

- (1) 将来の夢, 展望 (希望職務, 大学院進学等, なるべく具体的に記入)
- (2) 志望動機
- (3) ゼミ関連科目成績 (以下の基幹教育数学の成績は必ず記入, 3年次編入者は対応科目を記入)
線形代数学 I 線形代数学 II 微分積分学 I 微分積分学 II
金融工学・数理ファイナンス関連分野 (数学, 統計, 計算機等) があれば記入
- (4) 自分が当てはまると思うほうを選択せよ。
数学が (好き, 嫌い), 数学が (得意, 苦手)
- (5) 英語のテキストを使用することは可能か。
- (6) 2年間, ゼミに集中して取り組むことができるか。
(毎週, 十分な予習が必要となるため, 副ゼミは不可)
- (7) 自己アピール
(他のゼミ参加者に, どのような貢献ができるか, 理由を明確にして記述すること)

3. 必ず, メールにて松本までゼミ参加希望の連絡をすること。

本文には必ず氏名, 学籍番号を含め, 事務に提出した **Word ファイル複製を添付**すること。
なお, 重要事項を送付してきたメールに返信連絡する予定であるため, 普段から確認しているメールアドレスを用いること。

ゼミ参加申請後, 参加希望者全員と Zoom による面接を実施する。